

地理学

Geography

担当教員名 石丸 香苗				
科目区分 一般 選択		授業方法 講義	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1年
開講期 前期		単位数 2	オフィスアワー	メールで事前連絡の上随時受け付ける
メールアドレス		ishimaru@fpu.ac.jp		
授業概要		地理学は自然や社会を「空間」という視点から扱う、幅広く柔軟性の高い学問です。本授業では、地質や気候などの自然や資源、人間の生業や文化などが、空間という視点からどのように関係づけ、整理・分析され、傾向や真実を見出すことが出来るのかを練習し、空間的視点を身に着けることを目的とします。		
到達目標		①世の中の事象が、空間情報から整理や分析をされることによって、色々な傾向や特徴が発見できることを理解する。 ②身の回りの事象を空間情報から整理して考えられる。		
授業計画・内容				
毎回の授業は、簡単な小テスト(正解・不正解ではなく思考のプロセスを見ます)・講義・感想文から構成されます。また、状況に応じて学生同士のディスカッションも行います。 大学近辺でのフィールドワークを入れますが、履修者が 40 名以上の場合は二部制で行うため、一限開始前を利用する場合がありますのでご了承ください。授業のスケジュールは変更する場合があります。 <<スケジュール>> 1. ガイダンス 2. 地理学の歩き方 3. 地理学の成り立ち 4. 地形図を読もう① 5. 地形図を読もう② 6. 兼定島フィールドワーク 7. 災害から身を守る地理 8. 世界の格差に関するワークショップ 9. 世界の格差と地理 10. 世界の地誌学(ゲストスピーカー) 11. 言語地理 12. 身の周りの地理 13. 地理情報利用の演習 14. まとめ 15. レポート課題について				
キーワード		空間情報、自然、暮らし、整理、分析、地図		
教科書		なし。適宜教員から資料を配布します。		
参考書		各単元ごとに Classroom で紹介します。復習として勉強したい人は参照してください。		
評価方法・評価基準		毎回行う小テスト(25%)、感想(25%)、期末レポート(50%) 小テストは正解かどうかよりも、何からどう考え判断したかを評価します。感想はどのよ		

	うな視点で授業内容を理解したかについて評価します。期末レポートは研究調査形式です。遠隔の場合の評価方法も同じです。
関連科目	なし。
履修要件	特になし。地図や路線図が好きな人、旅が好きな人などには向いていると思います。
必要な事前・事後学修	準備学習は必要時には適宜指示します。指示があるとき以外は、前回の学習内容を確認しておいてください。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 防災分野の実務経験あり
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	履修定員 70 名。定員を上回った場合は抽選を行います。履修希望者は初回授業に出席してください。初回で定員を上回った場合、履修できないことがあります。

キャリア形成論

Introduction to Career Development

担当教員名 森本 康太郎			
科目区分 一般 選択	授業方法 講義	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1
開講期 前期	単位数 2	オフィスアワー	随時（メールで事前に連絡をください）
メールアドレス	morimoto 末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。		
授業概要	本科目では、学生生活の充実とキャリアデザインの関連を確認したうえで、職業理解を深め、自身の目指すキャリアデザインを検討することを目的とする。特に後半の授業では、福井県内の企業等から多彩なゲスト講師を迎え、産業経済・企業環境の現状、職業と社会、労働、企業、個人との関わり等をテーマとした講義を行い、今後のキャリアデザインについて考える機会とする。		
到達目標	①職業や産業、労働の世界に関する基礎的事項を理解できる。 ②職業と社会、労働、企業、個人との関わりを理解できる。 ③職業理解を通じて得られた気づきを文章で表現できる。		
授業計画・内容			
1 オリエンテーション			
2 大学での学びとキャリアデザイン			
3 大学生活の価値観			
4 社会を見る視点			
5 産業と職業			
6 企業と事業体			
7 業界理解と企業研究に必要な視点			
8 ゲスト講義①			
9 ゲスト講義②			
10 ゲスト講義③			
11 ゲスト講義④			
12 ゲスト講義⑤			
13 ゲスト講義⑥			
14 ゲスト講義⑦			
15 まとめ			
※ゲスト講義①～⑦については、福井県内における製造業、流通業、情報通信業、金融業、公的機関等、様々なキャリアの最前線で活躍しているゲストスピーカーを招聘する。			
キーワード	職業理解 産業経済 企業環境		
教科書	特に用いない。授業で使用する資料やワークシート等は、その都度配布する。		
参考書	川崎友嗣編著『大学生のためのキャリアデザイン―自分を知る・社会を知る・未来を考える』ミネルヴァ書房 2019 年 藤村博之編著『考える力を高めるキャリアデザイン入門―なぜ大学で学ぶのか』有斐閣 2021 年		
評価方法・評価基準	定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。 評価の割合は、平常試験(ワークシート、ミニッツペーパー等)：60%、レポート：40%とする。		

	なお、授業を 4/5 以上出席した者を評価の対象とする。
関連科目	キャリアデザイン概論Ⅰ、キャリアデザイン概論Ⅱ、キャリアデザイン特論（いずれも経済学部専門関連科目）
履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	授業資料や引用文献・参考資料等を読み、授業内容を理解し、自己のキャリア形成に関する考察に生かせるようにすること。 欠席した授業は授業資料を読み理解を進めること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 語学教育を中心とする教育関連企業と、総合大学・付属学校を運営する学校法人における実務経験（営業、人材育成、広報、企画、総務、渉外）を有する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	本科目では、ゲストスピーカーの登壇を用意している。授業マナーや主体性を持って履修することが一層求められる点に十分留意すること。

東南アジアの文化と社会

Culture and Society of Southeast Asia

担当教員名 加藤 裕美			
科目区分 一般 選択	授業方法 講義	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1 年
開講期 後期	単位数 2	オフィスアワー	メールで事前連絡の上、随時受け付ける。
メールアドレス	kato の後に@と fpu. ac. jp を付ける。		
授業概要	東南アジアは、シンガポール、タイ、インドネシア、ベトナム、マレーシア、フィリピンなどの 11 か国から構成されている。この授業では、自然、民族、社会、文化など様々な視点から東南アジアを学び、日本と東南アジアのつながりについて考察できるようになることを目指す。		
到達目標	1. 東南アジアの自然・社会・文化について理解できる。 2. 東南アジア各国の特徴を理解し、現代的状況を分析できる。 3. 東南アジアと日本のつながりについて説明できるようになる。		
授業計画・内容			
東南アジアは現在、急成長している地域であり、多くの日本企業が進出している。また東南アジア由来のモノも私たちの身の回りに溢れている。この授業では、急速に変化する東南アジアを自然、国家、民族、文化など様々な視点から学んでいく。			
第 1 回	ガイダンス	＜東南アジアの国々＞	
第 2 回	東南アジアの自然と生業	＜熱帯雨林、マングローブ、希少生物＞	
第 3 回	東南アジアの国家と民族	＜多民族国家、国民統合、多文化政策＞	
第 4 回	東南アジアの都市生活	＜メガシティ、人口過密、スラム＞	
第 5 回	東南アジアの海の暮らし	＜漂海民、海洋資源、伝統捕鯨＞	
第 6 回	映画で学ぶ東南アジア	＜タイ、フィリピン、シンガポールの映画＞	
第 7 回	東南アジアの経済	＜ASEAN 経済、日系企業、日本経済との関係＞	
第 8 回	中間まとめ	＜小括＞	
第 9 回	福井に暮らす東南アジアの人々	＜技能実習生、看護師、介護士＞	
第 10 回	介護・福祉と東南アジア	＜介護・福祉＞	
第 11 回	福井の産業と東南アジア人材	＜農業、漁業、技能実習生＞	
第 12 回	農業を通じた国際協力	＜国際協力、青年海外協力隊＞	
第 13 回	東南アジアの医療と看護	＜病院、医療、国際協力＞	
第 14 回	時事トピック	＜時事トピック＞	
第 15 回	まとめ	＜振り返り＞	
* 遠隔授業の場合、Google Classroom を用いた資料の配布と、Zoom を用いたオンライン授業を行う。			
* 授業の順番が前後する可能性がある。			
* ゲストスピーカーによる授業を含む。			
キーワード	東南アジア、文化、社会、民族、自然、多文化社会		
教科書	なし。教員が作成したレジュメを毎回配布する。		
参考書	* 購入しなくてよい* 『東南アジアを知るための 50 章』 今井昭夫、明石書店、2014。		

	『東南アジア地域研究入門1～3』井上真ほか、慶應義塾大学出版会、2017。 『アジアの多文化社会と国民国家』西川長夫ほか、人文書院、1998。
評価方法・評価基準	授業中に毎回おこなう小テストや課題と、授業への取り組みにより、授業で扱った内容の理解度を評価する。 遠隔授業の評価方法も同じ。
関連科目	東アジアの文化と社会、イスラーム史
履修要件	
必要な事前・事後学修	・事前学修は、日頃から新聞やニュースに目を通し、東南アジアに関する時事情報をチェックすること。 ・事後学修は、配布したレジュメを読み直すこと。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 東南アジアでの実務経験のあるゲストスピーカーによる講義を含む。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

恐竜学

Dinosaur Paleontology

担当教員名 柴田正輝、服部創紀				
科目区分 一般 選択		授業方法 講義	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1年
開講期 前期	単位数 2	オフィスアワー	月曜日 13:00-14:30 必ず事前にメールで連絡すること。	
メールアドレス	sdino（柴田）、s-hattori（服部）の後に-g@g.fpu.ac.jp			
授業概要	本授業では、メディア等に登場する恐竜像と科学的根拠に基づく最新の恐竜像と比較することで、実際に生きていた生物としての恐竜の姿を学習する。さらに、古生物学の基礎知識や恐竜進化に関わる地質時代のイベントを紹介し、古生物学全般への興味を深める。			
到達目標	1. 多様な恐竜を区別できる 2. 科学的根拠に基づいた最新の恐竜像を知る 3. 多様な恐竜の復元の問題点を考察し、科学的根拠との関連性を知り、恐竜がどのような生物であったかを理解する 関連する DP（ディプロマ・ポリシー） DP2. 古生物学や地質学、古環境学、デジタル科学等の専門知識を身につけ、またそれらに関連する調査研究方法を修得している			
授業計画・内容				
柴田：7回、服部：8回 第1回：イントロダクション（柴田） 第2回：恐竜学を学ぶために（柴田） 第3回：映画の中の恐竜学1：恐竜の発掘（柴田） 第4回：映画の中の恐竜学2：登場する恐竜の分類（柴田） 第5回：映画の中の恐竜学3：カモノハシ恐竜（柴田） 第6回：映画の中の恐竜学4：角や鎧を持つ恐竜（柴田） 第7回：映画の中の恐竜学5：恐竜の姿を復元する（柴田） 第8回：映画の中の恐竜学6：巨大恐竜（服部） 第9回：映画の中の恐竜学7：群れで狩りをする恐竜（服部） 第10回：映画の中の恐竜学8：ティラノサウルス（服部） 第11回：映画の中の恐竜学9：速く走る恐竜（服部） 第12回：映画の中の恐竜学10：恐竜ではない竜たち（服部） 第13回：映画の中の恐竜学11：恐竜-再生（服部） 第14回：映画の中の恐竜学12：恐竜-映画にみる恐竜研究の進展（服部） 第15回：恐竜の絶滅（服部）				
キーワード	恐竜、古生物学、映画、復元、進化、絶滅			
教科書	資料を配付する。			
参考書	福井県立恐竜博物館展示解説書（福井県立恐竜博物館著、福井県立恐竜博物館、2023年） 恐竜大百科事典（James O. Farlow・M.K. Brett-Surman 著 小畠郁夫監訳、朝倉書店、2001年） 恐竜学入門：かたち・生態・絶滅（D. E. Fastovsky・D. B. Weishampel 著 真鍋真監訳、東京化学同人、2015年）			
評価方法・評価基準	小テスト（10%）と学期末試験（90%）で評価する。			

関連科目	特になし。
履修要件	特になし。
必要な事前・事後学修	事前学修：資料や参考書を用いて授業範囲の予習を行うこと。 事後学修：授業内容を復習し整理すること。課題を期限までに提出すること。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 両教員とも恐竜博物館での勤務経験あり
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	小テストは各講義ごとで行います。

海と暮らし

Topics of Marine Life

担当教員名 海洋生物資源学科の教員(オムニバス)				
科目区分 一般 選択		授業方法 講義	授業の実施方法 遠隔授業	対象学年 1 年
開講期 後期		単位数 2	オフィスアワー	
メールアドレス				
授業概要	本講義では、海洋生物資源学に関連する多様な学問領域のトピックスを紹介する。魚類の生態や微生物の役割、食の安全性やおいしさの科学に加え、環境や生態系の保全に関する幅広いテーマについて取り上げる。また、福井県をはじめとする地域の現状や課題にも触れ、海洋生物資源の持続可能な利用や地域社会とのつながりについても講義する。			
到達目標	海洋生物資源学に関する多様な知識と幅広い見識を修得し、海洋環境や生物資源が人々の生活や社会に与える影響について考察する力を養う。また、地域および地球規模の課題に対して、持続可能な利用や保全の視点から主体的に考え、行動するための基礎的な能力を身につける。 DP:①			
授業計画・内容				
1. 海の予報（兼田） 10/3 2. 海の変化と生物資源（瀬戸） 10/10 3. 海の湧き水（杉本） 10/17 4. 藻場と魚の生態学（小路） 10/24 5. 藻類の多様性（佐藤） 10/31 6. 海藻養殖（吉川） 11/7 7. 海洋細菌の働き（近藤） 11/14 8. 海洋のウイルス（高尾） 11/21 9. 海の原生生物（片岡） 11/28 10. 水産食品の安全性（松川） 12/5 11. 水産物の健康機能性（今道） 12/12 12. 海産物に潜む病原性細菌（下畑） 12/19 13. 魚介類のおいしさ（横山） 12/26 14. 福井の魚（水田） 1/16 15. 水産物の鮮度と品質（細井） 1/23 遠隔授業の場合：Zoom によるオンライン授業と GC による期末試験を行う				
キーワード	海洋環境、海洋生物、海洋資源、水産食品、味、安全、加工			
教科書	担当教員の指示による。			
参考書	「若狭のおさかな」(青海編著) 晃洋書房、「水産海洋ハンドブック」(竹内ら著) 生物研究社など			
評価方法・評価基準	期末試験で評価し、満点の 60%以上を合格とする。 海洋生物資源と人の暮らしとの関わりについての基本的理解が評価の基準になる。			
関連科目	海洋生物資源学部開講の科目など			
履修要件	特になし。			
必要な事前・事後学修	事前・事後学修は必要時には適宜指示します。指示があるとき以外は、前回の学習内容を			

	確認しておいてください。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 公設研究機関や民間食品企業で働いた経験のある教員の講義を含む。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

観光学

Tourism Studies

担当教員名 加藤 裕美			
科目区分 一般 選択	授業方法 講義	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1年
開講期 後期	単位数 2	オフィスアワー	メールで事前連絡の上、随時受け付ける。
メールアドレス	kato の後に@と fpu. ac. jp を付ける。		
授業概要	本講義では観光現象を文化・社会・経済的など、様々な視点から読み解いていく。福井や日本、世界の事例を学ぶことにより、観光の効果と問題点について検討する。また、観光への地域社会の関わり方について学び、持続可能な観光のあり方を考える。		
到達目標	1. 観光について文化人類学、地域研究、社会学、経済学などの視点から理解できる。 2. 観光がどのような効果や問題をはらんでいるのか、その両面について説明できる。 3. 地域社会と観光の多様なかわり方について分析できる。		
授業計画・内容			
人はなぜ観光をするのだろうか？グローバル化にともない、国境を越えた人の移動が増加し、自然環境や伝統文化等に配慮した持続可能な観光が求められている。一方で、観光による地域おこしやまちづくりを期待する地域も見られる。本講義では、複雑化する観光現象を日本と世界の事例から学んでいく。			
第1回	ガイダンス	＜観光学とは？＞	
第2回	日本の観光動向	＜インバウンド、アウトバウンドの特徴は？＞	
第3回	魅力的な観光地とは？	＜グループ・ディスカッション＞	
第4回	持続可能な観光とポストコロナの観光	＜オルタナティブツーリズム、コロナ禍の観光＞	
第5回	福井の自然を生かした体験型観光	＜エコツーリズム、グリーンツーリズム、農家民宿＞	
第6回	地元の観光を調べよう	＜調べ学習、観光資源、観光プラン＞	
第7回	地元の観光を分析しよう	＜グループディスカッション＞	
第8回	中間まとめ	＜復習＞	
第9回	福井県の観光の目標と課題	＜福井県の観光の現状、観光戦略＞	
第10回	旅行業界の動向	＜ツーリズム産業の動向＞	
第11回	観光まちづくり	＜地域活性化、地域おこし、交流人口＞	
第12回	福井の観光を調べよう	＜調べ学習、観光資源、観光戦略＞	
第13回	福井の観光を分析しよう	＜グループ・ディスカッション＞	
第14回	グループ発表	＜観光地について調べた結果の発表＞	
第15回	まとめ	＜総括＞	
* 授業の順番が前後する可能性がある。			
* ゲストスピーカーによる授業を含む。			

* 遠隔授業の場合、Google Classroom を用いた資料の配布と、Zoom を用いたオンライン授業を行う。

キーワード	観光、旅行、文化交流、地域活性化、まちづくり
教科書	なし。教員が作成したレジュメを毎回配布する。
参考書	* 購入しなくてよい* 『観光学ガイドブック』 大橋昭一ほか ナカニシヤ出版 2014。 『よくわかる観光社会学』 安村克己ほか ミネルヴァ書房 2011。 『世界一訪れたい日本の作り方』 デービッド・アトキンソン 東洋経済新報社 2017。
評価方法・評価基準	毎回の授業で行う小テスト、調べ学習、グループディスカッションへの取り組みにより評価する。 遠隔授業の評価方法も同じである。
関連科目	文化経済学
履修要件	
必要な事前・事後学修	・事前学修は、日頃から新聞やニュースに目を通し、観光に関する時事情報をチェックすること。 ・事後学修は、配布したレジュメを読み直すこと。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 観光行政や旅行会社など、観光に関する実務経験のあるゲストスピーカーによる講義を含む。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

言語文化（中国）A

Language and Culture (China) A

担当教員名 加藤 錦霞				
科目区分 一般 選択		授業方法 講義	授業の実施方法 対面授業（遠隔授業の場合も有）	対象学年 1年
開講期 前期		単位数 2	オフィスアワー	授業前後に対応する
メールアドレス		授業時に伝える		
授業概要	中国語には様々な方言がある、中国で普及している標準語はいつから使うようになったのか、標準語の特徴などを学習し、世界三大料理の一つである中国料理、中国の四大不朽名作（三国演義、紅樓夢など）を解説していく。また、中国の文化、現代中国人たちの生活などを通じて総合的に中国を理解する。			
到達目標	この授業を通して、言語（中国語）の背景にある中国文学、中国の歴史、中国料理などをより理解するとともに、現代の中国社会と中国人の生活を知ることと国際感覚を養うことを目標とする。			
授業計画・内容				
第1回： 中国語概要（中国語標準語、方言など）				
第2回： 中華料理概要（分類・作り方の種類など、中華料理体験がある）				
第3～4回： 映像を通じて中華料理を知る				
第5回： 中国の不朽名作 「三国演義」				
第6～8回、 中国の不朽名作 「三国演義」の有名な戦いーレッドクリフを通して、より 諸葛孔明、周瑜、曹操を知る				
第9～10回： 中国の不朽名作 「紅樓夢」は中国の源氏物語ともいわれている。上流社会の賈氏一族の貴公子である賈宝玉を主人公とし繊細でプライドの高い美少女の林黛玉、良妻賢母型の薛宝?の三角関係を?に展開するストーリーである。				
第11回： 紅樓夢の映像を見る				
第12～13回： 中国のAI事情				
第14～15回： 中国の大学生生活と日本の大学生生活の共通点と相違点				
遠隔授業になった場合のツール：ZoomとGCです。				
キーワード	中国文学 中国歴史 中国語 料理 大学生生活 AI			
教科書	プリントを配布する			
参考書				
評価方法・評価基準	学習態度・レポート提出により評価する。遠隔授業となった場合も同じです。			
関連科目				
履修要件	中国文化、歴史、中国語に興味がある学生			
必要な事前・事後学修	特にありません。			
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 中国の大学での教員経験に基づき、中後の大学生生活、中国の過去と現在を講述する。			
施行規則に定める科目区分又は事項等				

その他	授業内容と順番を変更する場合がある。
-----	--------------------

言語文化（中国）B

Language and Culture (China) B

担当教員名 加藤錦霞				
科目区分 一般 選択		授業方法 講義	授業の実施方法 対面授業（遠隔授業の場合も有）	対象学年 1年
開講期 後期		単位数 2	オフィスアワー	授業前後に対応する
メールアドレス		最初の授業時に伝える		
授業概要	この授業は漢民族と少数民族の文化や風習の違い、中国の民族音楽(二胡)、中国のお茶、近年盛んになっている中国観光、中国の春節、東洋医学の理論、様々な方面から中国を紹介する。			
到達目標	この授業を通して、言語(中国語)の背景にある中国文化、多方面から学習し、より中国理解することと国際感覚を養うことを目標とする。			
授業計画・内容				
第1回： 授業進め方の説明、中国の教育(大学入試など)				
第2～4回： 中国の民族音楽（閃光少年を通して、理解する）				
第5～7回： 中国の京劇				
第8～9回： 中国の少数民族				
第10～11回： 中国茶(お茶の種類、産地、作法など、中国茶を試飲する)				
第12～13回： 東洋医学（陰陽五行説、薬膳）				
第14～15回： 中国の春節(春節の過ごし方、中国のせち料理)				
遠隔授業になった場合のツール：ZoomとGCです。				
キーワード	中国語、 中国文化（少数民族、 お茶、 春節、京劇など）			
教科書	資料配布			
参考書				
評価方法・評価基準	学習態度・レポート提出することにより評価する。 遠隔授業となった場合も同じです。			
関連科目				
履修要件				
必要な事前・事後学修	特にありません。			
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 中国の大学での教員経験に基づき、中国の大学生活・中国事情などを紹介する。			
施行規則に定める科目区分又は事項等				
その他	授業内容と順番は変更する場合があります。			

体育実技Ⅲ（スクーバダイビング）

Physical TrainingⅢ : Scuba Diving

担当教員名 石原 一成、彦坂 弘久			
科目区分 一般 選択	授業方法 実技	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1年
開講期 前期集中	単位数 1	オフィスアワー	火曜日 1～2 時限（体育館管理室） 不在の場合もあるので、事前にメール等で 予定を確認してください。メールでの質問 も受け付けます。
メールアドレス	ishihara(at) fpu. ac. jp ※（at）は@に置き換えて下さい		
授業概要	身体活動の意義や役割を理解し、生涯にわたる身体的・精神的・社会的な健康の維持増進 や自己管理に役立つ基礎知識と態度を実習を通じて育てます。		
到達目標	①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める ②健康的な生活を確認する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る ④他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながるスキルの獲得を図る 学位授与方針（DP）との関連：①多様な授業科目による、創造的理解力と幅広い知識の修得、②少人数教育による、主体的かつ調和のとれた人格形成		
授業計画・内容			
1. オリエンテーション、アイス・ブレーキング、教材配布、リスクの確認、書類への記入、水中世界の楽しみ方 2. ダイビング器材とその使い方 3. 体の機能と水中環境、ダイビングの計画と実施 4. 水中の世界、ダイビング経験と継続教育 5. 学科試験 6. 限定水域・海洋実習オリエンテーション 7. 限定水域実習：授業計画 7～9 回分 マスククリア、スノーケル呼吸／クリア、フィンキック、ボビング法、サーフェスダイブ 器材のセッティング、レギュレータ呼吸、レギュレータ・クリア／リカバリー、マスククリア／脱着、 浮力コントロール、空気供給、空気供給しながらの浮上、緊急スイミング浮上、緊急浮力浮上、 水中・水面でのシリンダー脱着、水面でのウエイトベルト脱着 10. 海洋実習：授業計画 10～14 回分 マスククリア、スノーケル呼吸／クリア、フィンキック、ボビング法、サーフェスダイブ 器材のセッティング、レギュレータ呼吸、レギュレータ・クリア／リカバリー、マスククリア／脱着、 浮力コントロール、空気供給、空気供給しながらの浮上、緊急スイミング浮上、緊急浮力浮上、 水中・水面でのシリンダー脱着、水面でのウエイトベルト脱着 15. まとめ、テスト、レポート この科目は授業の特性上、遠隔授業への切り替えができません。そのため、対面授業が実施できない場合は「不開講」となります。			

【その他】

本授業は、前期の土曜日・日曜日を利用し、3日間にわたって実施する予定です。内容は以下のとおりです。

1日目：学内実習

2・3日目：学外実習（南越前ダイビングパーク）

実習には、別途実習費（昨年度 32,600 円（税込））および交通費が必要です。また、学科・実技の両方で基準を満たした場合、ダイビング指導団体 Scuba Schools International（SSI）が認定するオープンウォーターダイバーCカードを取得することができます。

キーワード	身体活動、生涯スポーツ、自己管理、コミュニケーション、就業力
教科書	MySSI アプリ（デジタル教材、デジタルログブック：実習費に含む）
参考書	なし。随時紹介します。
評価方法・評価基準	評価は以下の3つの項目を総合的に行います。 ①授業に対する積極的な参加態度（受講者との協力、状況判断とその対応、コミュニケーション能力）：60% ②集団技能（ゲームの結果や内容をチーム単位で評価）：20% ③基礎理論および説明の理解度：20% また、実技科目という特性上、4回以上欠席した場合は単位の修得が非常に困難になります。
関連科目	体育実技Ⅰ、体育実技Ⅱ、スポーツ科学、運動処方論
履修要件	オリエンテーションを含む学内実習に出席していない学生は、参加を認めません。また、授業内容の充実や安全性を確保するため、受講人数を制限する場合があります。
必要な事前・事後学修	事前学修（60分）：日頃からストレッチや軽い運動を毎日10分程度行い、身体を慣らしておきます。 事後学修（30分）：前回の授業内容を復習し、学んだことを再確認します。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり スクーバダイビング指導団体の最高峰資格を有し、ダイビングショップを経営する教員（彦坂）が、学科および実技指導を担当します。
施行規則に定める科目区分又は事項等	体育
その他	【授業計画・内容】に記載

体育実技Ⅲ（ユニバーサルスポーツ）

Physical TrainingⅢ : Universal Sports

担当教員名 石原 一成、小林 靖幸			
科目区分 一般 選択	授業方法 実技	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1 年
開講期 後期集中	単位数 1	オフィスアワー	火曜日 1～2 時限（体育館管理室） 不在の場合もあるので、事前にメール等で 予定を確認してください。メールでの質問 も受け付けます。
メールアドレス	ishihara(at) fpu. ac. jp ※（at）は @ に置き換えて下さい		
授業概要	子ども、高齢者、障がいのある人など、誰もが楽しめるように工夫されたスポーツ（ユニバーサルスポーツ）について学び、体験し、理解を深めます。		
到達目標	①様々なユニバーサルスポーツの特徴や楽しみ方を理解する ②自分の体力や技術を認識し、自分に応じたスポーツの実施方法を見出し、主体的にスポーツに取り組む力を養う ③配慮や理解を必要とする様々な状態にある人たちと共に活動していくための工夫ができる視点、姿勢を持つきっかけをつくる 学位授与方針（DP）との関連：①多様な授業科目による、創造的理解力と幅広い知識の修得、②少人数教育による、主体的かつ調和のとれた人格形成		
授業計画・内容			
1. オリエンテーション 2～3. ユニバーサルスポーツの理解・体験 4～7. イベント・交流大会への参加① 8～11. イベント・交流大会への参加② 12～14. イベント・交流大会の運営・サポート 15. まとめ、テスト、レポート 下記の種目を受講人数や受講者の状況に応じて実施する。 ・パラスポーツ（ボッチャ、ブラインドサッカー、ゴールボールなど） ・フライングディスク種目（ディスタンス、アキュラシーガなど） ・バレーボール系種目（フロアバレーボール、シットティングバレーボール、風船バレーボールなど） ・卓球系種目（卓球バレー、サウンドテーブルテニスなど） ・車椅子種目（スラローム、車いすサッカー、車椅子バスケットボール・車いすテニスなど） ・レクリエーション系種目（モルック、ペタンク、スポーツチャンバラ、スポーツ吹矢など） ユニバーサルスポーツとは、年齢、国籍、障害の有無、スポーツの得意不得意に関わらず、誰もが一緒に楽しめるスポーツの総称です。誰でも参加でき、楽しめることから、共生社会の実現に貢献できると期待されています。 この科目は授業の特性上、遠隔授業への切り替えができません。そのため、対面授業が実施できない場合は「不開講」となります。			
キーワード	ユニバーサルスポーツ、ダイバーシティ、コミュニケーション、ノーマライゼーション、共生社会		
教科書	なし。必要に応じて資料を配布します。		

参考書	なし。随時紹介します。
評価方法・評価基準	評価は以下の3つの項目を総合的にを行います。 ①授業に対する積極的な参加態度（受講者との協力、状況判断とその対応、コミュニケーション能力）：60% ②集団技能（ゲームの結果や内容をチーム単位で評価）：20% ③基礎理論および説明の理解度：20% また、実技科目という特性上、4回以上欠席した場合は単位の修得が非常に困難になります。
関連科目	体育実技Ⅰ、体育実技Ⅱ、スポーツ科学、運動処方論
履修要件	オリエンテーションを含めた学内で行う授業に出席しない学生の参加は認めない。また、授業内容の充実と安全性を考え、受講人数を制限することがある。
必要な事前・事後学修	事前学修（60分）：日頃からストレッチや軽い運動を毎日10分程度行い、身体を慣らしておきます。 事後学修（30分）：前回の授業内容を復習し、学んだことを再確認します。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり クラブマネージャーの資格を持ち、ユニバーサルスポーツ教室やスポーツ体験イベントを主催する総合型地域スポーツクラブの代表である教員（小林）が、学科および実技指導を担当します。
施行規則に定める科目区分又は事項等	体育
その他	本授業は、後期の土曜日・日曜日を利用し、4日間にわたって実施する予定です。内容は以下のとおりです。 1日目：学内実習 2～4日目：学外実習（春江西コミュニティセンター、福井県社会福祉センター、その他）

情報科学

Information Literacy

担当教員名 眞田 嵩大				
科目区分 一般 必修		授業方法 講義	授業の実施方法 遠隔授業（ハイフレックス）	対象学年 1年・看護福祉学部
開講期 後期		単位数 2	オフィスアワー	水曜 4,5 限（できるだけ事前にメールや口頭で連絡してください）
メールアドレス	tsanada@fpu.ac.jp			
授業概要	情報社会を生きる上で必要な次の知識と思考を学ぶ。 (1) 情報社会で起きている変化 (2) 情報倫理、情報を扱ううえでの留意事項、情報セキュリティ (3) 情報をクリティカルに読み解く能力（メディアリテラシー） (4) コンピュータのハードウェア・ソフトウェア・ネットワークの仕組みと機能 (5) 社会におけるデータ・AI の利活用、留意事項			
到達目標	(1) 情報社会の変化や最近の動向、問題を理解している。 (2) 情報倫理、データ倫理を身に着けており、様々な脅威に対し、基本的な情報セキュリティ対策がとれる。 (3) 様々なメディアの特性を理解し、適切な基準で情報の選択や論理的な分析ができる。 (4) コンピュータを構成する要素として、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの仕組みを理解し、活用できる。 (5) AI・データサイエンスを学ぶことの意義、活用領域、使われている技術、AI で出来ることと出来ないことを理解している。			
授業計画・内容				
第1回 イン트로ダクション				
第2回 第1章：情報社会 ― 情報社会への動き、情報社会が抱える問題 ― 事前学修：教科書や資料を読んで情報社会で起きている変化を把握する。 事後学修：この単元の確認テスト・課題または、教科書の章末問題に取り組む。				
第3回 第2章：インターネット（1）インターネットの歴史・サービス 事前学修：高校の「情報Ⅰ」の「情報システムとサービス」について復習する。 事後学修：授業の復習として、インターネットの利便性と危険性を考察する。				
第4回 第2章：インターネット（2）インターネットの仕組み・セキュリティ 事前学修：高校の「情報Ⅰ」の「情報セキュリティ」について復習する。 事後学修： この単元の確認テスト・課題または、教科書の章末問題に取り組む。				
第5回 第3章：情報倫理とセキュリティ（1） 情報社会への参画、著作権 事前学修：高校の「情報Ⅰ」の「情報モラル」、「法規と制度」について復習する。 事後学修：授業の復習として、インターネット上の法整備の現状と課題を考察する。				
第6回 第3章：情報倫理とセキュリティ（2）情報を扱ううえでの留意事項（個人情報保護、データ倫理、ELSI）、情報セキュリティ 事前学修：高校の「情報Ⅰ」の「情報の管理と保護」、「情報セキュリティ」について復習する。 事後学修：この単元の確認テスト・課題または、教科書の章末問題に取り組む。				
第7回 第4章：メディアリテラシー（1）定義、基本的な視点、クリティカルシンキング 事前学修：高校の「情報Ⅰ」の「メディアリテラシー」について復習する。				

事後学修：授業の復習として、SNS や AI がメディアリテラシーとどのように関わっているのかを考察する。

第 8 回 第 4 章：メディアリテラシー（2）ソーシャルメディア・AI 時代のメディアリテラシー、実践

事前学修：教科書を読んで、情報評価の視点について予習する。

事後学修：この単元の確認テスト・課題または、章末問題に取り組む。

第 9 回 第 5 章：情報とコンピュータ（1）情報とは何か、人体の情報処理、情報をはかる

事前学修：高校の「情報Ⅰ」の「情報の特性」、および、対数関数について復習する。

事後学修：授業の復習として、情報量や情報エントロピーの計算方法や意味を確認する。

第 10 回 第 5 章：情報とコンピュータ（2）情報のデジタル表現、情報量と圧縮

事前学修：高校の情報Ⅰの「情報の表し方」、「情報のデジタル化」について復習する。

事後学修：この単元の確認テスト・課題または、章末問題に取り組む。

第 11 回 第 6 章：コンピュータの管理：コンピュータの基本構成、ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークの管理

事前学修：高校の「情報Ⅰ」の「コンピュータの構成と動作」、「ネットワークの構成」について復習する。

事後学修：この単元の確認テスト・課題または、章末問題に取り組む。

第 12 回 第 7 章：アルゴリズムとプログラミング

事前学修：高校の「情報Ⅰ」のアルゴリズムとその表記法を復習する。

事後学修：この単元の確認テスト・課題または、章末問題に取り組む。

第 13 回 第 8 章：人工知能（AI）とデータサイエンス（1）AI の定義・活用事例・歴史・仕組み

事前学修：教科書を読んで、この回に学ぶ内容を予習する。

事後学修：授業の復習として、AI がデータサイエンスとどのように関わっていくかを考察する。

第 14 回 第 8 章：人工知能（AI）とデータサイエンス（2）生成 AI、AI の限界と留意点、データサイエンスのステップ・目的・活用分野

事前学修：教科書を読んで、この回に学ぶ内容を予習する。

事後学修：この単元の確認テスト・課題または、章末問題に取り組む。

第 15 回 まとめ

授業の進捗により、実施回は前後することがある。ゲストスピーカーによる授業を含む。

キーワード	情報リテラシー、情報倫理、情報セキュリティ、メディアリテラシー、コンピュータリテラシー、AI、データサイエンス
教科書	徳野淳子・山川修・田中武之共著「情報リテラシー（第 4 版）」森北出版 2022
参考書	
評価方法・評価基準	評価方法：テスト：50%、ミニッツペーパー：30%、レポート課題：20% ※テストはオンラインまたは対面で実施する。 評価基準：「到達目標」に示す能力が身に付いたかどうかを総合的に判定する。
関連科目	ICT リテラシー、データサイエンス基礎、プログラミング基礎、メディア情報リテラシー、情報処理演習（AI）、情報技術者「国家試験Ⅰ」

履修要件	
必要な事前・事後学修	事前・事後学修は、単元によって異なる。詳細は、「授業計画・内容」欄を参照のこと。 平均して各 2 時間（計 60 時間）の学修を目安とする。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 民間企業でのプログラム作成経験がある
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	・学部・学科毎にクラスが指定されているので、時間割で自分のクラスと担当教員を確認すること。 ・必修科目の為、初回の授業から参加すること。

ICT リテラシー

ICT Literacy

担当教員名 眞田 嵩大				
科目区分 一般 必修		授業方法 演習	授業の実施方法 遠隔授業（ハイフレックス）	対象学年 1年(経営学科)
開講期 前期		単位数 2	オフィスアワー	水曜 4,5 限（できるだけ事前にメールや口頭で連絡してください）
メールアドレス		tsanada@fpu.ac.jp		
授業概要	大学での学修において、情報システムやネットワークを使いこなせるように、次の項目について演習形式で学習する。 (1) パソコンの管理と操作方法 (2) レポートや論文・発表資料の作成など学術的な目的での各種アプリケーションソフトやクラウドサービスの利活用 (3) 情報倫理や情報セキュリティ等 また、大学入学時までに修得すべき内容については、事前学修としてオンデマンド教材を用いて学習する。			
到達目標	(1) 自分のパソコンの基本操作と管理ができる。 (2) 大学の学修に必要なアプリケーションソフトやクラウドサービスを目的に応じて選択し、適切に使いこなせる。 (3) 情報倫理や情報セキュリティに関して基本的な知識を身につけている。 (4) 個人情報や研究データを扱う上での基本的な留意事項を理解している。			
授業計画・内容				
第1回 授業の進め方、オンライン授業で使用する各種システム、ID とパスワードの管理 事前学修：パソコンを準備し、学内 Wi-Fi に接続しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。				
第2回 タッチタイピング、附属図書館の案内 事前学修：キーの配置とタイピングソフトの基本操作を確認しておく。 事後学修：タイピング課題に取り組む。				
第3回 パソコンの設定と管理・セキュリティ対策 事前学修：Windows の基本操作を確認しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。タイピングの課題に取り組む。				
第4回 電子メールのマナーとセキュリティ 事前学修：大学のメールシステムの使い方を確認しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。タイピングの課題に取り組む。				
第5回 レポート作成1 ― 文献の探し方、引用と著作権 ― 事前学修：文書作成ソフトの使い方、この単元で使用する機能を確認しておく。 事後学修：文書作成ソフトを使ってレポートを作成する。				
第6回 レポート作成2 ― レポートの形式、アウトラインの作成 ― 事前学修：文書作成ソフトの使い方、この単元で使用する機能を確認しておく。 事後学修：文書作成ソフトを使ってレポートを作成する。				
第7回 レポートの相互評価 事前学修：レポートを完成する。				

事後学修：相互評価の結果を踏まえ、レポートを修正する。

第 8 回 生成 AI の利活用と利用上の注意点

事前学修：授業で指定された生成 AI の使い方を確認しておく。

事後学修：この回に学んだことを復習する。

第 9 回 データ倫理、データの加工と集計

事前学修：データ解析ツールの使い方、この単元で使用する機能を確認しておく。

事後学修：この回に学んだことを復習する。

第 10 回 データの可視化と特徴説明

事前学修：データ解析ツールの使い方、この単元で使用する機能を確認しておく。

事後学修：データ分析結果を考察して、まとめる。

第 11 回 情報倫理

事前学修：情報倫理に関するビデオを視聴しておく。

事後学修：この回に学んだことを復習する。

第 12 回 情報セキュリティ

事前学修：情報セキュリティに関するビデオを視聴しておく。

事後学修：この回に学んだことを復習する。

第 13 回 クラウドサービスの利活用 — データの共有と情報公開時の注意点 —

事前学修：授業で指定されたクラウドサービスへのアクセス方法と機能を確認しておく。

事後学修：この回に学んだことを復習する。

第 14 回 情報デザインとプレゼンテーション

事前学修：プレゼンテーションソフトの使い方を確認しておく。

事後学修：プレゼンテーション資料を作成する。

第 15 回 この授業で学んだことの発表、まとめ

事前学修：プレゼンテーション資料を完成する。

事後学修：プレゼンテーション資料の修正とこの授業の振り返りを行う。

キーワード	ICT リテラシー、パソコン管理、情報倫理、セキュリティ、アプリケーションソフトの活用、データリテラシー、生成 AI
教科書	教科書は使用しない。担当者が作成した Web 上の教材を利用する。
参考書	木野富士男，高橋尚子：[演習]アカデミックスキルとしての ICT 活用第 2 版，技術評論社，2023.
評価方法・評価基準	評価方法：各回の学習 (40%)、課題 (60%) 評価基準：各回の学習内容をきちんとこなしているか、各課題の目標スキルを達成しているかを考慮して総合的に判定する。
関連科目	情報科学、データサイエンス基礎
履修要件	
必要な事前・事後学修	事前・事後学修は、単元によって異なる。詳細は、「授業計画・内容」欄を参照のこと。 平均して各 2 時間（計 60 時間）の学修を目安とする。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 民間企業でプログラムを作成した経験がある

施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	・ 学部・学科毎にクラスが指定されているので、時間割で自分のクラスと担当教員を確認すること。 ・ 初回の授業から参加すること。 ・ 初回の授業までに、自分のパソコンを学内 Wi-Fi に接続し、毎回パソコンを持参して受講すること。Wi-Fi への接続方法はオリエンテーションで連絡する。

ICT リテラシー

ICT Literacy

担当教員名 眞田 嵩大				
科目区分 一般 必修		授業方法 演習	授業の実施方法 遠隔授業（ハイフレックス）	対象学年 1年(看護学科、社会福祉学科)
開講期 前期		単位数 2	オフィスアワー	水曜 4,5 限（できるだけ事前にメールや口頭で連絡してください）
メールアドレス		tsanada@fpu.ac.jp		
授業概要	大学での学修において、情報システムやネットワークを使いこなせるように、次の項目について演習形式で学習する。 (1) パソコンの管理と操作方法 (2) レポートや論文・発表資料の作成など学術的な目的での各種アプリケーションソフトやクラウドサービスの利活用 (3) 情報倫理や情報セキュリティ等 また、大学入学時までに修得すべき内容については、事前学修としてオンデマンド教材を用いて学習する。			
到達目標	(1) 自分のパソコンの基本操作と管理ができる。 (2) 大学の学修に必要なアプリケーションソフトやクラウドサービスを目的に応じて選択し、適切に使いこなせる。 (3) 情報倫理や情報セキュリティに関して基本的な知識を身につけている。 (4) 個人情報や研究データを扱う上での基本的な留意事項を理解している。			
授業計画・内容				
第1回 授業の進め方、オンライン授業で使用する各種システム、ID とパスワードの管理 事前学修：パソコンを準備し、学内 Wi-Fi に接続しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。				
第2回 タッチタイピング、附属図書館の案内 事前学修：キーの配置とタイピングソフトの基本操作を確認しておく。 事後学修：タイピング課題に取り組む。				
第3回 パソコンの設定と管理・セキュリティ対策 事前学修：Windows の基本操作を確認しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。タイピングの課題に取り組む。				
第4回 電子メールのマナーとセキュリティ 事前学修：大学のメールシステムの使い方を確認しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。タイピングの課題に取り組む。				
第5回 レポート作成1 ― 文献の探し方、引用と著作権 ― 事前学修：文書作成ソフトの使い方、この単元で使用する機能を確認しておく。 事後学修：文書作成ソフトを使ってレポートを作成する。				
第6回 レポート作成2 ― レポートの形式、アウトラインの作成 ― 事前学修：文書作成ソフトの使い方、この単元で使用する機能を確認しておく。 事後学修：文書作成ソフトを使ってレポートを作成する。				
第7回 レポートの相互評価 事前学修：レポートを完成する。				

事後学修：相互評価の結果を踏まえ、レポートを修正する。

第 8 回 生成 AI の利活用と利用上の注意点

事前学修：授業で指定された生成 AI の使い方を確認しておく。

事後学修：この回に学んだことを復習する。

第 9 回 データ倫理、データの加工と集計

事前学修：データ解析ツールの使い方、この単元で使用する機能を確認しておく。

事後学修：この回に学んだことを復習する。

第 10 回 データの可視化と特徴説明

事前学修：データ解析ツールの使い方、この単元で使用する機能を確認しておく。

事後学修：データ分析結果を考察して、まとめる。

第 11 回 情報倫理

事前学修：情報倫理に関するビデオを視聴しておく。

事後学修：この回に学んだことを復習する。

第 12 回 情報セキュリティ

事前学修：情報セキュリティに関するビデオを視聴しておく。

事後学修：この回に学んだことを復習する。

第 13 回 クラウドサービスの利活用 — データの共有と情報公開時の注意点 —

事前学修：授業で指定されたクラウドサービスへのアクセス方法と機能を確認しておく。

事後学修：この回に学んだことを復習する。

第 14 回 情報デザインとプレゼンテーション

事前学修：プレゼンテーションソフトの使い方を確認しておく。

事後学修：プレゼンテーション資料を作成する。

第 15 回 この授業で学んだことの発表、まとめ

事前学修：プレゼンテーション資料を完成する。

事後学修：プレゼンテーション資料の修正とこの授業の振り返りを行う。

キーワード	ICT リテラシー、パソコン管理、情報倫理、セキュリティ、アプリケーションソフトの活用、データリテラシー、生成 AI
教科書	教科書は使用しない。担当者が作成した Web 上の教材を利用する。
参考書	木野富士男，高橋尚子：[演習]アカデミックスキルとしての ICT 活用第 2 版，技術評論社，2023.
評価方法・評価基準	評価方法：各回の学習 (40%)、課題 (60%) 評価基準：各回の学習内容をきちんとこなしているか、各課題の目標スキルを達成しているかを考慮して総合的に判定する。
関連科目	情報科学、データサイエンス基礎
履修要件	
必要な事前・事後学修	事前・事後学修は、単元によって異なる。詳細は、「授業計画・内容」欄を参照のこと。 平均して各 2 時間（計 60 時間）の学修を目安とする。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 民間企業でプログラムを作成した経験がある

施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	・ 学部・学科毎にクラスが指定されているので、時間割で自分のクラスと担当教員を確認すること。 ・ 初回の授業から参加すること。 ・ 初回の授業までに、自分のパソコンを学内 Wi-Fi に接続し、毎回パソコンを持参して受講すること。Wi-Fi への接続方法はオリエンテーションで連絡する。

ICT リテラシー

ICT Literacy

担当教員名 清水 康弘				
科目区分 一般 選択		授業方法 演習	授業の実施方法 遠隔授業（ハイフレックス）	対象学年 1年(その他参照)
開講期 後期		単位数 2	オフィスアワー	第1回目の授業で連絡する。
メールアドレス		pt-yshimizu-g@g.fpu.ac.jp		
授業概要	大学での学修において、情報システムやネットワークを使いこなせるように、次の項目について演習形式で学習する。 (1) パソコンの管理と操作方法 (2) レポートや論文・発表資料の作成など学術的な目的での各種アプリケーションソフトやクラウドサービスの利活用 (3) 情報倫理や情報セキュリティ等 また、大学入学時までには修得すべき内容については、事前学修としてオンデマンド教材を用いて学習する。			
到達目標	(1) 自分のパソコンの基本操作と管理ができる。 (2) 大学の学修に必要なアプリケーションソフトやクラウドサービスを目的に応じて選択し、適切に使いこなせる。 (3) 情報倫理や情報セキュリティに関して基本的な知識を身につけている。 (4) 個人情報や研究データを扱う上での基本的な留意事項を理解している。			
授業計画・内容				
第1回 授業の進め方、オンライン授業で使用する各種システム、ID とパスワードの管理 事前学修：パソコンを準備し、学内 Wi-Fi に接続しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。				
第2回 タッチタイピング、附属図書館の案内 事前学修：キーの配置とタイピングソフトの基本操作を確認しておく。 事後学修：タイピング課題に取り組む。				
第3回 パソコンの設定と管理・セキュリティ対策 事前学修：Windows の基本操作を確認しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。タイピングの課題に取り組む。				
第4回 電子メールのマナーとセキュリティ 事前学修：大学のメールシステムの使い方を確認しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。タイピングの課題に取り組む。				
第5回 レポート作成1 ― 文献の探し方、引用と著作権 ― 事前学修：文書作成ソフトの使い方、この単元で使用する機能を確認しておく。 事後学修：文書作成ソフトを使ってレポートを作成する。				
第6回 レポート作成2 ― レポートの形式、アウトラインの作成 ― 事前学修：文書作成ソフトの使い方、この単元で使用する機能を確認しておく。 事後学修：文書作成ソフトを使ってレポートを作成する。				
第7回 レポートの相互評価 事前学修：レポートを完成する。				

事後学修：相互評価の結果を踏まえ、レポートを修正する。

第 8 回 生成 AI の利活用と利用上の注意点

事前学修：授業で指定された生成 AI の使い方を確認しておく。

事後学修：この回に学んだことを復習する。

第 9 回 データ倫理、データの加工と集計

事前学修：データ解析ツールの使い方、この単元で使用する機能を確認しておく。

事後学修：この回に学んだことを復習する。

第 10 回 データの可視化と特徴説明

事前学修：データ解析ツールの使い方、この単元で使用する機能を確認しておく。

事後学修：データ分析結果を考察して、まとめる。

第 11 回 情報倫理

事前学修：情報倫理に関するビデオを視聴しておく。

事後学修：この回に学んだことを復習する。

第 12 回 情報セキュリティ

事前学修：情報セキュリティに関するビデオを視聴しておく。

事後学修：この回に学んだことを復習する。

第 13 回 クラウドサービスの利活用 — データの共有と情報公開時の注意点 —

事前学修：授業で指定されたクラウドサービスへのアクセス方法と機能を確認しておく。

事後学修：この回に学んだことを復習する。

第 14 回 情報デザインとプレゼンテーション

事前学修：プレゼンテーションソフトの使い方を確認しておく。

事後学修：プレゼンテーション資料を作成する。

第 15 回 この授業で学んだことの発表、まとめ

事前学修：プレゼンテーション資料を完成する。

事後学修：プレゼンテーション資料の修正とこの授業の振り返りを行う。

キーワード	ICT リテラシー、パソコン管理、情報倫理、セキュリティ、アプリケーションソフトの活用、データリテラシー、生成 AI
教科書	教科書は使用しない。担当者が作成した Web 上の教材を利用する。
参考書	木野富士男，高橋尚子：[演習]アカデミックスキルとしての ICT 活用第 2 版，技術評論社，2023.
評価方法・評価基準	評価方法：各回の学習 (40%)、課題 (60%) 評価基準：各回の学習内容をきちんとこなしているか、各課題の目標スキルを達成しているかを考慮して総合的に判定する。
関連科目	情報科学、データサイエンス基礎
履修要件	
必要な事前・事後学修	事前・事後学修は、単元によって異なる。詳細は、「授業計画・内容」欄を参照のこと。 平均して各 2 時間（計 60 時間）の学修を目安とする。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 官公庁の勤務経験を有する者

施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	・ このクラスは、主として、経済学部、創造農学科、看護福祉学部の再履修生を対象とする。 ・ 定員に余裕があれば、再履修生以外も受け入れる。 ・ 初回の授業から参加すること。 ・ 初回の授業までに、自分のパソコンを学内 Wi-Fi に接続し、毎回パソコンを持参して受講すること。Wi-Fi への接続方法はオリエンテーションで連絡する。

プログラミング基礎

Basic Programming

担当教員名 真田 嵩大				
科目区分 一般 選択		授業方法 演習	授業の実施方法 遠隔授業（ハイフレックス）	対象学年 1 年
開講期 前期		単位数 2	オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメールや口頭で日時を相談するのが望ましい。（図書館棟 2 階 204 号室）
メールアドレス		tsanada@fpu.ac.jp		
授業概要		Python によるプログラミングを行う。条件分岐やループ、関数などあらゆるプログラミング言語に共通する考え方を中心に学ぶ。発展的な話題としてアルゴリズムの基礎（ソートや探索、計算量の概念）などにも触れる。		
到達目標		Python で条件分岐や繰り返し、関数が含まれたプログラムを作成できる。リストやグラフ構造、木構造などの基本的なデータ構造を理解し、プログラム上で扱える。ソートをはじめとした基本的なアルゴリズムの動作を説明できる。		
授業計画・内容				
第 1 回：プログラミング環境の導入 (Python, VSCode)、大規模言語モデルを使用したプログラミング方法				
第 2 回：フローチャート、プログラムの編集と実行、情報の種類（整数型、文字列型、浮動小数点型）、変数と四則演算・論理演算				
第 3 回：論理演算と条件分岐 (if)				
第 4 回：繰り返し (for, while)				
第 5 回：リストを用いたデータ処理				
第 6 回：並び替え（ソート）アルゴリズムの実装				
第 7 回：関数				
第 8 回：データ分析・利活用の基礎 1（データ加工）				
第 9 回：データ分析・利活用の基礎 2（線形回帰）				
第 10 回：グラフ構造				
第 11 回：木構造				
第 12 回：オブジェクト指向プログラミング 1				
第 13 回：オブジェクト指向プログラミング 2				
第 14 回：オリジナルなプログラム作品を作る（アイデア出し、実装）				
第 15 回：オリジナルなプログラム作品を作る（実装）				
講義の内容は前後する場合がある。				
キーワード		Python、プログラミング、アルゴリズム		
教科書		なし（適宜資料を配布する）		
参考書		Bill Lubanovic 著、鈴木 駿 監訳、長尾 高弘 訳『入門 Python 3』O'REILLY Japan		
評価方法・評価基準		評価方法：授業中に提出する課題 (40%) とレポート (60%) 評価基準：授業中に提出する課題はプログラム作成課題であり仕様を満たした動作をするかを判断する。レポート課題はプログラム作品の作成であり、その動作に不具合がないか、オリジナリティがあるかを判断する。		

関連科目	情報処理演習 (AI)、プログラミング応用、データサイエンス応用
履修要件	ICT リテラシーの単位を習得済みであること
必要な事前・事後学修	各回の演習の後に自分でプログラムを変更して動かす等の実験を行うこと
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 民間企業で計算機プログラムを作成した経験がある。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	初回に Python プログラミングの環境構築を行うため、初回から参加すること（自分でできる場合はこの限りではない）。 2024 年度以前に「プログラミング A」の単位を修得した学生は、履修不可。

情報処理演習 (AI)

Information Processing Seminar (AI)

担当教員名 眞田 嵩大			
科目区分 一般 選択	授業方法 演習	授業の実施方法 遠隔授業（ハイフレックス）	対象学年 1 年
開講期 後期	単位数 2	オフィスアワー	水曜 4, 5 限（できるだけ事前にメールや口頭で連絡すること）
メールアドレス	tsanada@fpu.ac.jp		
授業概要	人工知能(AI)の原理と応用を学ぶ。Python を用いてニューラルネットワークによる画像認識プログラムを作成する。これにより人工知能の特徴・有益性・限界・問題を実践的に知る。		
到達目標	ニューラルネットワークの基本的な動作原理を説明できる。 AI を使用・作成するうえでの倫理上の注意を理解し実践できる。 画像認識 AI を作成・改変できる。		
授業計画・内容			
授業計画 第 1 回：授業の進め方・成績評価について、AI の歴史、AI 倫理、機械学習 第 2 回：実世界で進む機械学習の応用と発展、数学の予備知識（微分） 第 3 回：AI 開発環境と実行環境（Python, Google Colaboratory）の導入 第 3 回：線形回帰 第 4 回：ニューラルネットワークの構造 第 5 回：ニューラルネットワークの学習原理 1（微分による勾配降下） 第 6 回：ニューラルネットワークの学習原理 2（誤差逆伝播法） 第 7 回：Python プログラミングの基礎 第 8 回：ニューラルネットワークの実装 1（ネットワークの構造） 第 9 回：ニューラルネットワークの実装 2（誤差逆伝播） 第 10 回：人工的なデータセットに対するニューラルネットワーク 1 第 11 回：ニューラルネットワークのパラメータを変更する 第 12 回：手書き文字画像認識プログラムの実装 1（畳み込みニューラルネットワーク） 第 13 回：手書き文字画像認識プログラムの実装 2（ミニバッチ） 第 14 回：手書き文字画像認識プログラムの実装 3（精度向上のためのさまざまな工夫） 第 15 回：生成 AI の基礎（拡散モデル、大規模言語モデル）と応用 講義の内容は前後する場合がある。 ゲストスピーカーによる講義が行われる可能性がある。			
キーワード	人工知能(AI)、機械学習、ニューラルネットワーク		
教科書	なし（適宜資料を配布する）		
参考書	斎藤 康毅『ゼロから作る Deep Learning』O'REILLY Japan		
評価方法・評価基準	評価方法：授業中に提出する課題(40%)とレポート(60%) 評価基準：授業中に作成・提出するプログラムが適切に動作するか、レポート課題で提出するプログラムが講義中で学んだ要素を適切に反映しているかを判断する。		

関連科目	プログラミング基礎
履修要件	ICT リテラシーの単位を習得済みであること。高校で扱う程度の微分の知識（微分の定義や多項式の微分）があることが望ましい。 プログラミング基礎を履修したか、それと同程度の内容を身につけていることが望ましい（必須ではない）。
必要な事前・事後学修	講義後には演習で扱ったプログラムを各自で復習すること
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 民間企業で計算機プログラムを作成した経験がある。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	2024 年度以前に「情報処理 D」の単位を修得した学生は、履修不可

情報技術者（国家試験Ⅱ）

IT Engineer (National Examination II)

担当教員名 佐藤英治				
科目区分 一般 選択		授業方法 講義	授業の実施方法 遠隔授業（ハイフレックス）	対象学年 1年
開講期 後期		単位数 2	オフィスアワー	講義の後に質問を受け付けます。時間がかかりそうな質問については即答ではなく、予定を決めてその時間に対応します
メールアドレス	第1回目の授業で連絡する			
授業概要	情報処理推進機構（IPA）が実施する国家試験「情報セキュリティマネジメント」に準拠し、IT を安全に利活用するための基礎知識・技能を身に付ける。基礎科目「情報科学」および、自由科目「情報技術者（国家試験Ⅰ）」で学習した内容を補強しつつ、情報セキュリティ管理・対策、関連法規、ネットワーク、システム監査、経営管理について学習する。			
到達目標	・企業や組織の情報資産活用において考慮すべきセキュリティ知識を身に着けることができる ・国家試験「情報セキュリティマネジメント」でどのような問題が出る傾向があるか知ることができる			
授業計画・内容				
第1回 情報セキュリティマネジメント試験の概要				
第2回 模擬試験その1				
第3回 攻撃手法				
第4回 公開鍵・暗号鍵・デジタル署名				
第5回 模擬試験結果をもとにした弱点克服				
第6回 リスクマネジメント				
第7回 情報セキュリティ対策				
第8回 情報セキュリティ関連法規				
第9回 データベースとネットワーク				
第10回 計算や推理が必要な問題の練習1				
第11回 計算や推理が必要な問題の練習2				
第12回 模擬試験その2				
第13回 選択肢を選ぶ試験テクニック				
第14回 模擬試験結果をもとにした弱点克服				
第15回 模擬試験結果をもとにした弱点克服				
キーワード	情報セキュリティマネジメント、IPA、情報処理の促進に関する法律、情報処理推進機構、IT、情報技術者、国家試験			
教科書	令和07年情報セキュリティマネジメント過去問題集（技術評論社）、2023年改訂版要点早わかり情報セキュリティマネジメントポケット攻略法			
参考書	キタミ式イラストIT塾 情報セキュリティマネジメント 令和07年			
評価方法・評価基準	期末試験100% ただし、期末試験までに「情報セキュリティマネジメント」を本人が受験したことを証明できる場合、点数を加点する 国家試験「情報セキュリティマネジメント」に回答できる能力が身についたかどうかを試験及び加点要素により評価する			

関連科目	情報科学、情報技術者（国家試験Ⅰ）
履修要件	
必要な事前・事後学修	授業後、過去問題集の該当箇所の回答説明を読む
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 情報セキュリティ関連研修講師として、中高大学の授業、企業の社員教育、業界団体への 啓蒙活動の経験あり
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

情報技術者（民間資格）

IT Engineer (Private Qualification)

担当教員名 眞田 嵩大			
科目区分 一般 選択	授業方法 演習	授業の実施方法 遠隔授業（ハイフレックス）	対象学年 1 年
開講期 後期	単位数 2	オフィスアワー	水曜 4,5 限（できるだけ事前にメールや口頭で連絡してください）
メールアドレス	tsanada@fpu.ac.jp		
授業概要	情報技術に関する民間資格である G 検定を対象として、この検定に沿った内容を身につける。 具体的には、人工知能に関する技術（ディープラーニングやその周辺理論・技術）と人工知能に関する法律・倫理を理解する。 ディープラーニングについては、演習を通して実際に AI を作る。		
到達目標	G 検定合格におおむね相当する知識が身についている ディープラーニング技術について説明できる AI を社会で用いるための法的・倫理的注意点を理解している		
授業計画・内容			
第 1 回：G 検定について、人工知能の定義、問題、人工知能をめぐる動向			
第 2 回：機械学習 1（教師あり学習、教師なし学習、強化学習の概略）			
第 3 回：機械学習 2（教師あり学習、教師なし学習、強化学習の詳細）			
第 4 回：ディープラーニングの概要			
第 5 回：ディープラーニングにまつわる数学・学習原理（微分、勾配降下、誤差逆伝播）			
第 6 回：ディープラーニングのさまざまな工夫（畳み込み、最適化手法、ミニバッチ）			
第 7 回：ディープラーニング実装環境の導入			
第 8 回：Python プログラミング 1（変数、リスト、条件分岐、繰り返し）			
第 9 回：Python プログラミング 2（クラス、オブジェクト）			
第 10 回：ディープラーニングモデルの実装 1			
第 11 回：ディープラーニングモデルの実装 2			
第 13 回：AI の応用、社会実装に関する話題			
第 14 回：AI に関する法律と契約、倫理、ガバナンス			
第 15 回：まとめ			
講義の内容は前後する場合がある。			
キーワード	G 検定、人工知能、ディープラーニング		
教科書	なし（適宜資料を配布する）		
参考書	一般社団法人日本ディープラーニング協会（監修）、山下 隆義 他（著）、『深層学習教科書 ディープラーニング G 検定（ジェネラリスト）公式テキスト 第 3 版』		
評価方法・評価基準	評価方法：各回の学習（40%）、レポート（60%） 評価基準：各回の終わりに内容に関連する G 検定を参考にした問題を出し、その理解度をみる。レポートではディープラーニングに関連するプログラム作成を行い、G 検定の内容を実践できるかをみる。		
関連科目	情報処理演習（AI）		
履修要件			

必要な事前・事後学修	各回の内容を復習すること
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 民間企業でプログラムを作成した経験がある
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

経営学

Business Administration

担当教員名 経営学科教員によるオムニバス講義 (統括：木野 / 山下)			
科目区分 一般 選択	授業方法 講義	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1
開講期 前期	単位数 2	オフィスアワー	木野 月曜日 3・4 限 E502 / 山下 月曜日 5 限目 E903 (この時間以外に教員を訪ねたい場合は事前にメールすること)
メールアドレス	木野 kino / 山下 tyama (末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください)		
授業概要	経営学科教員がそれぞれの担当する専門科目の概要について講義を行うことで、経営学の基礎的な知識を網羅的に学び、次年度以降の学修の方向性や履修科目の選択に役立てられるようにする。		
到達目標	1. 経営学に関する基礎的な知識を網羅的に知ることが出来る 2. 本学の経営学教育の全体像を知ることが出来る 3. 今後の学修の方向性を決める際の参考にすることが出来る 4. 次年度以降の科目選択に役立てることが出来る ☆本講義は DP 1. に対応しています		
授業計画・内容			
以下の順番で講義を行う予定である (括弧内は担当教員氏名) ※一部、変更される可能性がある 1. オリエンテーション (木野・山下) 2. 経営戦略論 (早川) 3. 経営組織論 (北野) 4. 人的資源管理論 (飛田) 5. 企業論 (石崎) 6. 消費者行動論 (芝田) 7. 地域マネジメント論 (杉山友) 8. 会計学 (徳前) 9. 簿記論 (山下) 10. 経営財務論 (境) 11. 管理会計論 (木下) 12. 経営情報論 (藤野) 13. 中小企業論 (山崎淳) 14. 会社法 (福山龍) 15. 生産管理論、まとめ (木野) ※各講義において小テストまたは課題が出され、その提出をもって出席したものと見なす ※講義内容や担当者が変更になる可能性がある ※講義に関する連絡は、主に Google Classroom によって行う ※遠隔授業になった場合は、ZOOM と Google Classroom を用いてライブ形式で実施する予定 ※それぞれの講義内容に関する質問や欠席時の対応については、その講義を担当した教員に連絡すること 【重要! : 2 年生以上の経済学部の学生は以下の注意事項をよく読むこと!!】			

本科目は R5（2023）年度または R6（2024）年度経済学部専門科目『経営学総論 II』（オムニバス講義）と同じ講義内容となります。そのため、R5(2023)年度または R6(2024)年度に『経営学総論 II』の単位を取得した学生はこの科目を履修することはできません。履修登録時に一般教育科目として登録しないように注意してください！

キーワード	経営学、会計学、商学
教科書	特に指定しない
参考書	授業時間内に紹介する
評価方法・評価基準	平常点評価（100%） 1. 経営学に関する基礎的知識を網羅的に知ることが出来たかどうかを、小テストまたは課題により評価し、平常点とする。 2. 本学の経営学教育の全体像を知ることが出来たかどうかを、小テストまたは課題により評価し、平常点とする。 3. 今後の学修の方向性を決める際の参考にすることが出来たかどうかを、小テストまたは課題により評価し、平常点とする。 4. 次年度以降の科目選択に役立てることが出来たかどうかを、小テストまたは課題により評価し、平常点とする。 ※遠隔授業においても、同様
関連科目	経営学総論Ⅰ・Ⅱ
履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	準備学修や事後学修については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 経営の実務に携わった経験がある教員が担当するコマにおいては、その経験を踏まえて講義を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	- 必ず、Google Classroom (GC) の「経営学（一般教育科目）2025 年度」に登録すること（クラスコード：p375buy）。 - 講義の課題提出回数や成績については、受講者自身で管理すること（これらに関する問い合わせには回答しない）。 2 年生以上の経済学部学生は「授業計画・内容」の注意事項（【重要!】）を必ず読むこと！

脊椎動物の進化

Vertebrate Evolution

担当教員名 河部 壮一郎、今井 拓哉				
科目区分 一般 選択		授業方法 講義	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1 年
開講期 前期		単位数 2	オフィスアワー	事前にメール等で連絡をしてください。
メールアドレス	kawabe/t_imai いずれも末尾に@fpu.ac.jp. をつけること。			
授業概要	約 46 億年前の地球誕生以降、様々な環境で多様な生命が生み出されてきた。本授業では 5 億年以上にわたる脊椎動物の進化の歴史を分類群ごとに概観し、生物の進化過程を理解する。			
到達目標	1. 分岐学に基づく脊椎動物の分類体系を説明できる 2. 脊椎動物の多様性を説明できる 3. 様々な地球環境の中で脊椎動物がどのように進化し今に至るのか把握できる 関連する DP（ディプロマ・ポリシー） DP2. 古生物学や地質学、古環境学、デジタル科学等の専門知識を身につけ、またそれらに関連する調査研究方法を修得している			
授業計画・内容				
第 1 回：イントロダクション 分類、生命の起源（今井） 第 2 回：地球史・進化史概論（今井） 第 3 回：カンブリア爆発と脊椎動物の起源（今井） 第 4 回：初期の脊椎動物（今井） 第 5 回：動植物の陸上進出（河部） 第 6 回：羊膜類の繁栄（河部） 第 7 回：大量絶滅と生物多様性（河部） 第 8 回：中生代の海洋変革（河部） 第 9 回：三畳紀の四肢動物（河部） 第 10 回：恐竜類の出現と繁栄（今井） 第 11 回：鳥類の進化（今井） 第 12 回：白亜紀の陸上革命（今井） 第 13 回：哺乳類の起源と新生代の哺乳類（河部） 第 14 回：新生代の地理と霊長類（河部） 第 15 回：人類への進化と氷河期の生物（河部）				
キーワード	進化、多様性、絶滅、脊椎動物、恐竜、哺乳類			
教科書	資料を配布する。			
参考書	コーウェン 地球生命史 第 6 版（マイケル・ベントン編、ロバート・ジェンキンズ・久保泰監訳、東京化学同人、2023 年）			
評価方法・評価基準	課題の提出（30%）と学期末試験（70%）で評価する。			
関連科目	恐竜学			
履修要件	特になし。			
必要な事前・事後学修	事前：資料や参考書を用いて授業範囲の予習を行うこと。 事後：授業内容を復習し、課題を期限内に提出すること。			

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 恐竜博物館の研究職員を併任。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	特になし。

水産増養殖学概論

Introduction to Aquaculture Science

担当教員名 先端増養殖科学科全教員および特任講師				
科目区分 一般 選択		授業方法 講義	授業の実施方法 遠隔授業	対象学年 1年
開講期 前期		単位数 2	オフィスアワー	講義前後で対応する。また、メールでの対応も行う。
メールアドレス		下記のとおり		
授業概要		本講義では、水産増養殖を俯瞰的に理解するために必要な種苗生産学，養魚育成学、魚病学，育種学、発生工学、水産海洋情報学，水産経済学の各分野について、基本的知識と最近のトピックおよび時事的な内容について講義する。講義は学科全教員により行い、水産増養殖が社会においてどのように貢献できるかを理解できるようにする。		
到達目標		水産増養殖に関する基本的な知識を身につける 水産増養殖が産業・地域振興にどのように貢献できるかを思考する能力を養う。 水産増養殖の役割と現状を理解することを目的とする。		
授業計画・内容				
第1回 大学で増養殖を学ぶ意義 （富永修）				
第2回 内水面の増養殖 （田原大輔）				
第3回 養殖の現状と養魚飼料 （佐藤秀一）				
第4回 魚も病気になる （末武弘章）				
第5回 魚も病気と戦う （瀧澤文雄）				
第6回 魚類育種の歴史と発展 （奥澤公一）				
第7回 情報科学で読み解く増養殖 （渡慶次力）				
第8回 養殖魚とマーケティング （東村玲子）				
第9回 海産無脊椎動物の増養殖の現状とこれから （浜口昌巳）				
第10回 ゲノム編集による養殖魚の品種改良の現状とこれから （吉浦康寿）				
第11回 カメラとAI で水槽内の魚の情報を取得する （八杉公基）				
第12回 ゲノム科学を用いた海藻類養殖 （西辻光希）				
第13回 養殖業の成長産業化に向けた取組事例 （米村輝一朗特任講師）				
第14回 （株）フィッシュパスが取り組む ICT、IoT の活用事例～これまでとこれから～ （西村成弘特任講師）				
第15回 越前ガニの増養殖は可能か （山本岳男特任講師）				
遠隔授業の場合：Zoom によるオンライン授業とオンデマンド授業を実施。				
（オフィスアワー）				
講義前後で対応する。また、メールでの対応も行う。				
（研究室とメールアドレス）				
かつみキャンパス教員研究室（末武:suetake@fpu.ac.jp）、同（瀧澤: takizawa@fpu.ac.jp）、				
同（西辻:nishitsuji@fpu.ac.jp）、同（渡慶次: tokeshi@fpu.ac.jp）、同（奥澤:okuzawa@fpu.ac.jp）、				
同（吉浦:yoshiura@fpu.ac.jp）、同（八杉: myasugi@fpu.ac.jp）				

海洋生物資源臨海研究センター研究室 1（田原:tahara@fpu.ac.jp）、
 同研究室 2、同研究室 3（富永:tominaga@fpu.ac.jp）、
 同情報資料室（浜口:hama0515@fpu.ac.jp）、513 号室（東村:reiko@fpu.ac.jp）、514 号室（佐藤:ssatoh@fpu.ac.jp）、
 特任講師 西村成弘 naruhiro.nishimura@fishpass.co.jp、米村輝一郎 koichiro_yonemura@kurosui.co.jp、
 山本岳男 yamamoto_takeo58@fra.go.jp

キーワード	養魚飼料、魚類育種、内水面、マーケティング、スマート養殖、AI、IoT、ICT、ゲノム
教科書	教員が教材を作成し関連資料を配布する。また、Google Classroom にアップする。
参考書	担当教員の指示による。水産遺伝育種学（東北大学出版会）
評価方法・評価基準	【評価方法】授業中の提出物・レポート（30%）、試験（70%）。100 点満点の 60 点以上を合格とする。 【評価基準】水産増養殖が多様な分野と関連していることを理解して整理できているかとこれらの知見を関連付けて理解しているかが評価の基準となる。
関連科目	先端増養殖科学科のすべての専門教育科目
履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	学習達成目標を明らかにし、到達度をチェックするための小テストを複数回行う場合がある。テスト前には、教科書とパワーポイント資料を用いて自宅で復習し理解を深めること。また、間違った部分は必ず教科書等で確認する事。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 浜口は国立研究開発法人水産研究・教育機構で長年マガキ、アワビ類、ナマコ類、ウニ類の種苗生産や増養殖研究を行うとともに、マガキ他各種二枚貝類の天然採苗を関係する県市や業者とともに実施してきた経験を有する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 水産の関係科目
その他	不明な点は積極的に質問してほしい。

ドイツ語 A①

German A①

担当教員名 村田幸子			
科目区分 一般 選択	授業方法 演習	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1年
開講期 前期	単位数 4	オフィスアワー	授業に関する質問・要望については、授業の後、およびメールでも対応します。
メールアドレス	pt-murata26-g@g.fpu.ac.jp		
授業概要	ドイツオールロケのDVD教材で、ドイツの最新のトピックに触れつつ、発音練習をするとともに、内容理解に必要な初級文法の基礎を、練習問題を解きながらしっかりと学びます。		
到達目標	ドイツ語、すなわち言語というツールを通して、その言葉が使われている国々の文化や習慣に触れます。さらに、自らの考えを述べ、相手の意見を聞くというコミュニケーション能力を得るための第一歩として、基礎的な文法知識と、「通じる発音」を身につけます。一年を通して、独検4級が合格できる実力を目指します。		
授業計画・内容			
第1回： 導入 ドイツ語のアルファベット			
第2回： ドイツ語の単語と発音			
第3回： 第1課 規則動詞の現在人称変化(前半)			
第4回： 重要動詞の現在人称変化(後半)			
第5回： 語順と文型			
第6回： 読解とヨーロッパについて			
第7回： まとめ			
第8回： 第2課 名詞の性			
第9回： 名詞の格（1， 4格）			
第10回： 所有冠詞			
第11回： 読解と家族紹介			
第12回： まとめ			
第13回： 第3課 名詞の複数形			
第14回： 名詞の格（2, 3格）			
第15回： 人称代名詞の格変化			
第16回： 読解とドイツの食事			
第17回： まとめ			
第18回： 中間テスト			
第19回： 第4課 分離動詞			
第20回： 非分離動詞			
第21回： 話法の助動詞			
第22回： 読解と天気			
第23回： まとめ			
第24回： 第5課 前置詞			

第 25 回：	前置詞の格支配
第 26 回：	読解と動物園
第 27 回：	まとめ
第 28 回：	第 6 課 再帰代名詞と再起動詞
第 29 回：	命令形
第 30 回：	読解とまとめ
*但し、遠隔授業の場合：Zoom によるオンライン授業、および Google Classroom による教材の提供と・課題の提出 となる。	
キーワード	・生きたドイツ語とは？ ・知識の積み重ね ・外国文化を知る第一歩 ・コミュニケーションのための基礎をつくる！
教科書	ドイツ語の時間 〈わくわくライプツィヒ〉 清野智昭/Eva Wolbling 朝日出版社
参考書	授業初めにアドバイスしますので、事前購入は不要です。より文法的知識を深めたい人には、「必携ドイツ文法総まとめ」(中島悠爾ほか・白水社)など。ドイツ語辞書の携帯を推奨。
評価方法・評価基準	期末試験および中間テスト(60%)、平常点(提出課題・発言の有無・学習態度と出席)(40%)により、総合的に評価する。(遠隔授業の場合も、評価・試験のやり方は変わるが、基本的に変更なし。)
関連科目	ドイツ語 A②、B①、B②
履修要件	原則として、週に 2 回ある授業を両方受講しなければならない。また、毎時間の予習と、特に復習に力を注いで下さい。
必要な事前・事後学修	授業で与えられた課題は、各自、次の講義までに完成させて持参すること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 外資系(ドイツ)企業に勤務していた際の、実務を通した様々な体験や、非営利団体である日独友好親善協会での活動を通し、そこから見えるドイツ的思考や慣習などを紹介します。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	ドイツの人々の日常生活についての生の情報の他、人気のドイツ音楽や DVD を視聴したり、ドイツ文化なども紹介します。福井とドイツとの深いかかわりや交流の実績についても紹介します。 【重要】2024 年度以前に「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得した学生は、履修不可 (「ドイツ語Ⅰ」は対応する旧カリ科目名)

ドイツ語 A②

German A②

担当教員名 村田幸子			
科目区分 一般 選択	授業方法 演習	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1 年
開講期 前期	単位数 4	オフィスアワー	授業に関する質問・要望については、授業の後、およびメールでも対応します。
メールアドレス	pt-murata26-g@g.fpu.ac.jp		
授業概要	ドイツ語の日常的な会話を中心に、繰り返し発音練習し、自然なドイツ語を身につけていきます。会話、聞き取り、読解に加えて、初級の基本的な文法を、練習問題を解きながら学びます。なお、本授業では、発声による、より積極的な参加が求められます。		
到達目標	ドイツ語、すなわち言語というツールを通して、その言葉が使われている国々の文化や習慣に触れます。さらに、自らの考えを述べ、相手の意見を聞くというコミュニケーション能力を得るための第一歩として、基礎的な文法知識と、「通じる発音」を身につけます。一年を通して、独検 4 級が合格できる実力を目指します。		
授業計画・内容			
第 1 回： 導 入 ドイツ語のアルファベット			
第 2 回： 単語と発音			
第 3 回： アクセント			
第 4 回： 第 1 課 動詞の現在人称変化（前半）			
第 5 回： 動詞の位置			
第 6 回： 1 人称と 2 人称			
第 7 回： 挨拶、自己紹介、国・専攻			
第 8 回： まとめ			
第 9 回： 第 2 課 並列の接続詞			
第 10 回： sein 動詞			
第 11 回： ja, nein, doch の使い方			
第 12 回： 職業国籍			
第 13 回： まとめ			
第 14 回： 第 3 課 動詞の現在人称変化（後半）			
第 15 回： 形容詞			
第 16 回： 友達の紹介、数詞			
第 17 回： まとめ			
第 18 回： 中間テスト			
第 19 回： 第 4 課 名詞の性と冠詞（1.4 格）、			
第 20 回： 不規則動詞の現在人称変化			
第 21 回： レストランでの会話			
第 22 回： 持ち物、色、食べ物			
第 23 回： まとめ			
第 24 回： 第 5 課 人称代名詞（1.4 格）			

第 25 回：	名詞の複数形
第 26 回：	住まい、家具、値段を聞く
第 27 回：	まとめ
第 28 回：	第 6 課 所有冠詞と否定冠詞
第 29 回：	家族
第 30 回：	まとめ
*但し、遠隔授業の場合：Zoom によるオンライン授業、および Google Classroom による教材の提供と・課題の提出 となる。	
キーワード	・生きたドイツ語とは？ ・知識の積み重ね ・外国文化を知る第一歩 ・コミュニケーションのための基礎をつくる！
教科書	Spitze！ 1（シュピッツェ 1）コミュニケーションで学ぶドイツ語 新倉/正木/中野著 朝日出版社
参考書	授業初めにアドバイスしますので、事前購入は不要です。より文法的知識を深めたい人には、「必携ドイツ文法総まとめ」（中島悠爾ほか・白水社）など。ドイツ語辞書の携帯を推奨。
評価方法・評価基準	期末試験および授業内での中間テスト(60%)、プレゼンテーション(10%)、平常点(提出課題・学習態度・出席)(30%)により、総合的に評価します。(遠隔授業の場合も、評価・試験のやり方は変わるが、基本的に変更なし。)
関連科目	ドイツ語 A①、B①、B②
履修要件	原則として、週に 2 回ある授業を両方受講しなければならない。また、毎時間の予習と、特に復習に力を注いで下さい。
必要な事前・事後学修	授業で与えられた課題は、次の講義までに完成させて持参すること。発音は各自で復習し、授業内での会話にスムーズに参加できるようにすること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 外資系(ドイツ)企業に勤務していた際の、実務を通した様々な体験や、非営利団体である日独友好親善協会での活動を通し、そこから見えるドイツ的思考や慣習などを紹介します。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	ドイツの人々の日常生活についての生の情報の他、人気のドイツ音楽や DVD を視聴し、ドイツ文化を身近にとらえます。福井とドイツとの深いかかわりと交流の実績についても紹介します。 【重要】2024 年度以前に「ドイツ語 I」の単位を修得した学生は、履修不可 (「ドイツ語 I」は対応する旧カリ科目名)

ドイツ語 B①

German B①

担当教員名 村田幸子			
科目区分 一般 選択	授業方法 演習	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1 年
開講期 後期	単位数 4	オフィスアワー	授業に関する質問・要望については、授業の後、およびメールでも対応します。
メールアドレス	pt-murata26-g@g.fpu.ac.jp		
授業概要	半年の入門ドイツ語を習得したことを前提に、さらに文法知識と表現法を拡充します。引き続き、ドイツオールロケ DVD を教材に用いながら、より高度な表現法を身につけます。		
到達目標	ドイツ語文法の基礎知識をさらに広げ、独検 4 級～3 級合格程度の実力を身につけます。異文化への理解を深めながら、ドイツへの旅行や、短期滞在の際にも使える日常的な会話の習得を目標とします。		
授業計画・内容			
第 1 回： 前期の復習と後期への導入			
第 2 回： 家族の名前、不定冠詞の復習			
第 3 回： 様々な代名詞の復習と練習			
第 4 回： 第 7 課 形容詞			
第 5 回： 形容詞の格変化			
第 6 回： 比較級と最上級			
第 7 回： 読解とモードについて			
第 8 回： まとめ			
第 9 回： 第 8 課 定冠詞類			
第 10 回： 定冠詞類の格変化			
第 11 回： 従属の接続詞と副文			
第 12 回： 読解とドイツのワインについて			
第 13 回： まとめ			
第 14 回： 第 9 課 現在完了形			
第 15 回： 過去分詞			
第 16 回： 過去形			
第 17 回： まとめ			
第 18 回： 中間テスト			
第 19 回： 第 10 課 受動態			
第 20 回： 関係代名詞			
第 21 回： 読解とドイツのクリスマスについて			
第 22 回： まとめ			
第 23 回： 第 11 課 zu 不定詞句			
第 24 回： 未来形			

第 25 回：	読解とドイツの環境政策について
第 26 回：	まとめ
第 27 回：	第 12 課 接続法
第 28 回：	非現実話法
第 29 回：	読解とメール（手紙）の書き方
第 30 回：	まとめ
＊ ＊ 但し、遠隔授業の場合、Zoom によるオンライン授業、および Google Classroom による教材の提供と課題の提出となる。	
キーワード	・ 知識の積み上げ ・ 外国文化や習慣への理解 ・ コミュニケーション能力を身につけよう！
教科書	ドイツ語の時間 〈わくわくライブツィヒ〉 清野智昭/Eva W?lbling 朝日出版社
参考書	随時、必要に合わせて授業の中で紹介します。 ドイツ語辞書の携帯を推奨します。（電子辞書でも可）
評価方法・評価基準	期末試験および中間テスト（60%）、平常点（提出課題・発言の有無学習態度・出席）（40%）により、総合的に評価する。（遠隔授業の場合も、評価・試験のやり方は変わるが、基本的に変更なし。）
関連科目	ドイツ語 A①、A②、B②
履修要件	ドイツ語 A を履修していること。また、前期で学んだことを土台に、さらに知識を広げて行きますので、より一層、復習に力を注いで下さい。
必要な事前・事後学修	授業で与えられた課題は、各自、次の講義までに完成させて持参すること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 外資系（ドイツ）企業に勤務していた際の、実務を通した様々な体験や、非営利団体である日独友好親善協会での活動を通し、そこから見えるドイツ的思考などを紹介します。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	映画鑑賞などで、ドイツ語圏文化への理解を深め、身につけた語学力を確認します。 なお、ドイツのクリスマス文化についても紹介します。 【重要】2024 年度以前に「ドイツ語Ⅱ」の単位を修得した学生は、履修不可（「ドイツ語Ⅱ」は対応する旧カリ科目名）

ドイツ語 B②

German B②

担当教員名 村田幸子			
科目区分 一般 選択	授業方法 演習	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1年
開講期 後期	単位数 4	オフィスアワー	授業に関する質問・要望については、授業の後、およびメールでも対応します。
メールアドレス	pt-murata26-g@g.fpu.ac.jp		
授業概要	半年の入門ドイツ語を習得したことを前提に、表現法と文法知識をさらに拡充します。引き続き、ドイツ語の日常的な会話を中心に自然なドイツ語を身につけていきますので、本授業では、より積極的な発声での参加が求められます。		
到達目標	ドイツ語文法の基礎知識をさらに広げ、独検4級にも対応できる実力を身につけます。異文化への理解を深めながら、ドイツへの旅行や、短期滞在の際にも使える日常的な会話の習得を目標とします。		
授業計画・内容			
第1回： 前期の復習と後期への導入			
第2回： 発音練習			
第3回： 様々な冠詞の復習			
第4回： 第7課 不規則動詞の現在人称変化（2）			
第5回： 趣味、余暇活動			
第6回： 曜日と頻度			
第7回： まとめ			
第8回： 第8課 所有冠詞			
第9回： 人称代名詞（3格）			
第10回： 贈り物			
第11回： 身につけるもの、数詞			
第12回： まとめ			
第13回： 第9課 話法の助動詞			
第14回： 未来形			
第15回： 予定の取り決め、ホテルの受付			
第16回： 規則と願望			
第17回： まとめ			
第18回： 中間テスト			
第19回： 第10課 時・場所を表す前置詞			
第20回： 道案内			
第21回： 交通手段			
第22回： まとめ			
第23回： ドイツのクリスマスについて			
第24回： 第11課 分離動詞			

第 25 回 :	時刻表現
第 26 回 :	1 日の行動
第 27 回 :	まとめ
第 28 回 :	第 12 課 現在完了形
第 29 回 :	旅行、四季、天候
第 30 回 :	まとめ
**但し、遠隔授業の場合 : Zoom によるオンライン授業、および Google Classroom による教材の提供と・課題の提出 となる	
キーワード	・知識の積み上げ ・外国文化や習慣への理解 ・コミュニケーション能力を身につけよう！
教科書	Spitze ! 1 (シュピッツェ 1) コミュニケーションで学ぶドイツ語 新倉/正木/中野著 朝日出版社
参考書	随時、必要に合わせて授業の中で紹介します。 ドイツ語辞書の携帯を推奨します。(電子辞書でも可)
評価方法・評価基準	期末試験および授業内での中間あるいは小テスト(60%)、プレゼンテーション(10%)、平常点(提出課題・学習態度・出席)(30%)により、総合的に評価します。(遠隔授業の場合も、評価・試験のやり方は変わるが、基本的に変更なし。)
関連科目	ドイツ語 A①、ドイツ語 A②、ドイツ語 B①
履修要件	ドイツ語 A を履修していること。また、前期で学んだことを土台、さらに知識を広げて行きますので、より一層、復習に力を注いで下さい。
必要な事前・事後学修	授業で与えられた課題は、各自、次の講義までに完成させて持参すること。発音は各自で復習し、授業内での会話にスムーズに参加できるようにすること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 外資系(ドイツ)企業に勤務していた際の、実務を通した様々な体験や、非営利団体である日独友好親善協会での活動を通し、そこから見えるドイツ的考え方などを紹介します。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	映画鑑賞などで、ドイツ語圏文化への理解を深め、身につけた語学力を確認します。 なお、ドイツのクリスマス文化についても紹介します。 【重要】2024 年度以前に「ドイツ語Ⅱ」の単位を修得した学生は、履修不可 (「ドイツ語Ⅱ」は対応する旧カリ科目名)

教養ゼミナール（野生動物と地域社会）

Academic and Interdisciplinary Studies

担当教員名 加藤 裕美																																																	
科目区分 一般 選択		授業方法 演習	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1年																																													
開講期 後期		単位数 2	オフィスアワー	メールで事前連絡の上、随時受け付ける。																																													
メールアドレス		kato のあとに@と fpu. ac. jp を付ける。																																															
授業概要		このゼミでは、野生動物と地域社会の関わりをテーマにし、対象の調査方法、調査結果のまとめ方、スライドやポスターを使った発表のしかたなどを学ぶ。大学生活に必要な、基本的な学習スキルの習得を目指す。																																															
到達目標		1. 野生動物と地域社会について関心のあるトピックを見つけることができる。 2. テーマについてグループの人と協力して調べることができる。 3. 調査結果をまとめ、わかりやすい発表をすることができる。																																															
授業計画・内容																																																	
このゼミでは、鳥獣害対策、ジビエの利用、里山の変化など、地域社会と野生動物のかかわりについて学ぶ。グループでテーマを設定し、グループ学習を行う。選んだテーマについて、調べた結果をまとめ、発表することを最終目標とする。 <table><tr><td>第1回</td><td>ガイダンス</td><td>・・・ゼミの進め方</td></tr><tr><td>第2回</td><td>コミュニケーション能力を高めよう</td><td>・・・他己紹介</td></tr><tr><td>第3回</td><td>野生動物と地域社会に関する講義(1)</td><td>・・・森林環境の変化や鳥獣害対策について</td></tr><tr><td>第4回</td><td>野生動物と地域社会に関する講義(2)</td><td>・・・狩猟や猟友会の取り組みについて</td></tr><tr><td>第5回</td><td>野生動物と地域社会に関する講義(3)</td><td>・・・ジビエの利用促進について</td></tr><tr><td>第6回</td><td>フィールドワーク(1)</td><td>・・・10月か11月の土日に1回おこなう</td></tr><tr><td>第7回</td><td>フィールドワーク(2)</td><td>・・・候補地は福井市（旧美山町）</td></tr><tr><td>第8回</td><td>調査テーマの決め方</td><td>・・・テーマの決め方</td></tr><tr><td>第9回</td><td>文献調査のしかた</td><td>・・・図書や論文の調べ方</td></tr><tr><td>第10回</td><td>情報検索のしかた</td><td>・・・インターネットを使った情報収集の注意点</td></tr><tr><td>第11回</td><td>レポートの書き方</td><td>・・・アカデミックライティング</td></tr><tr><td>第12回</td><td>調べた結果のまとめ方</td><td>・・・スライドやポスターを使った発表の準備(1)</td></tr><tr><td>第13回</td><td>口頭発表のしかた</td><td>・・・スライドやポスターを使った発表の準備(2)</td></tr><tr><td>第14回</td><td>グループ発表</td><td>・・・ディスカッションのしかた</td></tr><tr><td>第15回</td><td>相互評価</td><td>・・・授業の振り返り</td></tr></table> * 遠隔授業の場合、Google Classroom を用いた資料の配布と、Zoom を用いたオンライン授業を行う。 * フィールドワークは10月か11月の土日に1回、福井県内で行う予定である。					第1回	ガイダンス	・・・ゼミの進め方	第2回	コミュニケーション能力を高めよう	・・・他己紹介	第3回	野生動物と地域社会に関する講義(1)	・・・森林環境の変化や鳥獣害対策について	第4回	野生動物と地域社会に関する講義(2)	・・・狩猟や猟友会の取り組みについて	第5回	野生動物と地域社会に関する講義(3)	・・・ジビエの利用促進について	第6回	フィールドワーク(1)	・・・10月か11月の土日に1回おこなう	第7回	フィールドワーク(2)	・・・候補地は福井市（旧美山町）	第8回	調査テーマの決め方	・・・テーマの決め方	第9回	文献調査のしかた	・・・図書や論文の調べ方	第10回	情報検索のしかた	・・・インターネットを使った情報収集の注意点	第11回	レポートの書き方	・・・アカデミックライティング	第12回	調べた結果のまとめ方	・・・スライドやポスターを使った発表の準備(1)	第13回	口頭発表のしかた	・・・スライドやポスターを使った発表の準備(2)	第14回	グループ発表	・・・ディスカッションのしかた	第15回	相互評価	・・・授業の振り返り
第1回	ガイダンス	・・・ゼミの進め方																																															
第2回	コミュニケーション能力を高めよう	・・・他己紹介																																															
第3回	野生動物と地域社会に関する講義(1)	・・・森林環境の変化や鳥獣害対策について																																															
第4回	野生動物と地域社会に関する講義(2)	・・・狩猟や猟友会の取り組みについて																																															
第5回	野生動物と地域社会に関する講義(3)	・・・ジビエの利用促進について																																															
第6回	フィールドワーク(1)	・・・10月か11月の土日に1回おこなう																																															
第7回	フィールドワーク(2)	・・・候補地は福井市（旧美山町）																																															
第8回	調査テーマの決め方	・・・テーマの決め方																																															
第9回	文献調査のしかた	・・・図書や論文の調べ方																																															
第10回	情報検索のしかた	・・・インターネットを使った情報収集の注意点																																															
第11回	レポートの書き方	・・・アカデミックライティング																																															
第12回	調べた結果のまとめ方	・・・スライドやポスターを使った発表の準備(1)																																															
第13回	口頭発表のしかた	・・・スライドやポスターを使った発表の準備(2)																																															
第14回	グループ発表	・・・ディスカッションのしかた																																															
第15回	相互評価	・・・授業の振り返り																																															
キーワード		森林環境、里山、鳥獣害対策、狩猟、ジビエ																																															
教科書		なし。教員が作成したレジュメを毎回配布する。																																															
参考書		授業中に紹介する。																																															
評価方法・評価基準		授業への出席を重視する。(1)授業中の積極的な発言、(2)グループワークにおける協働、(3)スライドやポスターを使った発表により、学習内容の習得状況を評価する。遠隔授業になった場合の評価方法も同じである。																																															

関連科目	環境論、南米の社会と環境、文化人類学、学術ゼミ（民族学）
履修要件	
必要な事前・事後学修	事前学修は、日ごろから新聞やニュースなどに目を通し、野生動物と地域社会の諸問題について情報を収集すること。事後学修は、レジュメの内容を読み直すこと。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 鳥獣害対策や狩猟などの実務経験者をゲストスピーカーに招いた授業を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

教養ゼミナール（野生動物と地域社会）

Academic and Interdisciplinary Studies

担当教員名 加藤 裕美																																																
科目区分 一般 選択	授業方法 演習	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1年																																													
開講期 後期	単位数 2	オフィスアワー	メールで事前連絡の上、随時受け付ける。																																													
メールアドレス	kato のあとに@と fpu. ac. jp を付ける。																																															
授業概要	このゼミでは、野生動物と地域社会の関わりをテーマにし、対象の調査方法、調査結果のまとめ方、スライドやポスターを使った発表のしかたなどを学ぶ。大学生活に必要な、基本的な学習スキルの習得を目指す。																																															
到達目標	1. 野生動物と地域社会について関心のあるトピックを見つけることができる。 2. テーマについてグループの人と協力して調べることができる。 3. 調査結果をまとめ、わかりやすい発表をすることができる。																																															
授業計画・内容																																																
このゼミでは、鳥獣害対策、ジビエの利用、里山の変化など、地域社会と野生動物のかかわりについて学ぶ。グループでテーマを設定し、グループ学習を行う。選んだテーマについて、調べた結果をまとめ、発表することを最終目標とする。 <table><tr><td>第1回</td><td>ガイダンス</td><td>・・・ゼミの進め方</td></tr><tr><td>第2回</td><td>コミュニケーション能力を高めよう</td><td>・・・他己紹介</td></tr><tr><td>第3回</td><td>野生動物と地域社会に関する講義(1)</td><td>・・・森林環境の変化や鳥獣害対策について</td></tr><tr><td>第4回</td><td>野生動物と地域社会に関する講義(2)</td><td>・・・狩猟や猟友会の取り組みについて</td></tr><tr><td>第5回</td><td>野生動物と地域社会に関する講義(3)</td><td>・・・ジビエの利用促進について</td></tr><tr><td>第6回</td><td>フィールドワーク(1)</td><td>・・・10月か11月の土日に1回おこなう</td></tr><tr><td>第7回</td><td>フィールドワーク(2)</td><td>・・・候補地は福井市（旧美山町）</td></tr><tr><td>第8回</td><td>調査テーマの決め方</td><td>・・・テーマの決め方</td></tr><tr><td>第9回</td><td>文献調査のしかた</td><td>・・・図書や論文の調べ方</td></tr><tr><td>第10回</td><td>情報検索のしかた</td><td>・・・インターネットを使った情報収集の注意点</td></tr><tr><td>第11回</td><td>レポートの書き方</td><td>・・・アカデミックライティング</td></tr><tr><td>第12回</td><td>調べた結果のまとめ方</td><td>・・・スライドやポスターを使った発表の準備(1)</td></tr><tr><td>第13回</td><td>口頭発表のしかた</td><td>・・・スライドやポスターを使った発表の準備(2)</td></tr><tr><td>第14回</td><td>グループ発表</td><td>・・・ディスカッションのしかた</td></tr><tr><td>第15回</td><td>相互評価</td><td>・・・授業の振り返り</td></tr></table> * 遠隔授業の場合、Google Classroom を用いた資料の配布と、Zoom を用いたオンライン授業を行う。 * フィールドワークは10月か11月の土日に1回、福井県内で行う予定である。				第1回	ガイダンス	・・・ゼミの進め方	第2回	コミュニケーション能力を高めよう	・・・他己紹介	第3回	野生動物と地域社会に関する講義(1)	・・・森林環境の変化や鳥獣害対策について	第4回	野生動物と地域社会に関する講義(2)	・・・狩猟や猟友会の取り組みについて	第5回	野生動物と地域社会に関する講義(3)	・・・ジビエの利用促進について	第6回	フィールドワーク(1)	・・・10月か11月の土日に1回おこなう	第7回	フィールドワーク(2)	・・・候補地は福井市（旧美山町）	第8回	調査テーマの決め方	・・・テーマの決め方	第9回	文献調査のしかた	・・・図書や論文の調べ方	第10回	情報検索のしかた	・・・インターネットを使った情報収集の注意点	第11回	レポートの書き方	・・・アカデミックライティング	第12回	調べた結果のまとめ方	・・・スライドやポスターを使った発表の準備(1)	第13回	口頭発表のしかた	・・・スライドやポスターを使った発表の準備(2)	第14回	グループ発表	・・・ディスカッションのしかた	第15回	相互評価	・・・授業の振り返り
第1回	ガイダンス	・・・ゼミの進め方																																														
第2回	コミュニケーション能力を高めよう	・・・他己紹介																																														
第3回	野生動物と地域社会に関する講義(1)	・・・森林環境の変化や鳥獣害対策について																																														
第4回	野生動物と地域社会に関する講義(2)	・・・狩猟や猟友会の取り組みについて																																														
第5回	野生動物と地域社会に関する講義(3)	・・・ジビエの利用促進について																																														
第6回	フィールドワーク(1)	・・・10月か11月の土日に1回おこなう																																														
第7回	フィールドワーク(2)	・・・候補地は福井市（旧美山町）																																														
第8回	調査テーマの決め方	・・・テーマの決め方																																														
第9回	文献調査のしかた	・・・図書や論文の調べ方																																														
第10回	情報検索のしかた	・・・インターネットを使った情報収集の注意点																																														
第11回	レポートの書き方	・・・アカデミックライティング																																														
第12回	調べた結果のまとめ方	・・・スライドやポスターを使った発表の準備(1)																																														
第13回	口頭発表のしかた	・・・スライドやポスターを使った発表の準備(2)																																														
第14回	グループ発表	・・・ディスカッションのしかた																																														
第15回	相互評価	・・・授業の振り返り																																														
キーワード	森林環境、里山、鳥獣害対策、狩猟、ジビエ																																															
教科書	なし。教員が作成したレジュメを毎回配布する。																																															
参考書	授業中に紹介する。																																															
評価方法・評価基準	授業への出席を重視する。(1)授業中の積極的な発言、(2)グループワークにおける協働、(3)スライドやポスターを使った発表により、学習内容の習得状況を評価する。遠隔授業になった場合の評価方法も同じである。																																															

関連科目	
履修要件	
必要な事前・事後学修	事前学修は、日ごろから新聞やニュースなどに目を通し、野生動物と地域社会の諸問題について情報を収集すること。事後学修は、レジュメの内容を読み直すこと。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 鳥獣害対策や狩猟などの実務経験者をゲストスピーカーに招いた授業を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

職業指導論（商業）

Vocational Guidance

担当教員名 北本 泰則				
科目区分 教職 教科『商業』の免許は必修		授業方法 講義・演習	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1～4年
開講期 前期集中		単位数 2	オフィスアワー	授業の前後及びメール・Z o o m等にて対応する
メールアドレス		kita1107@tvk.ne.jp		
授業概要		本講座では、経済のグローバル化や少子高齢化、技術革新による産業構造の変化など、職業選択はこれまで以上に多様化・複雑化しており、教師として、このような不透明な社会において、生徒自身が自己実現に向けて、生き方・在り方を考え、主体的に職業選択の支援ができる、知識・技能等の資質を身につける。		
到達目標		（１）職業指導の歴史と基礎的なキャリア教育の知識を学修する。 （２）社会及び経済の変遷による雇用の変化を理解する。 （３）学校現場でのキャリア教育・進路指導・職業指導の知識や具体的な指導方法を学修する。 （４）労働及び雇用に関する法的な基礎知識を学ぶ。 （５）教員として生徒の進路選択に適切な指導・助言ができる資質と能力を身につける。		
授業計画・内容				
※遠隔授業となった場合は、Z o o mによる授業とする				
第１回：授業ガイダンス、働くことの意義・職業意識				
第２回：キャリア教育・進路指導・職業指導の歴史と発展				
第３回：キャリア教育の意義（文科省キャリア教育の手引き）				
第４回：ガイダンス・カウンセリングの基礎理論				
第５回：生徒指導・進路指導・キャリア教育の理念と性格				
第６回：生徒理解の方法・技術（進路ノートの活用）				
第７回：進路指導の校内組織と運営				
第８回：教育相談と進路相談の方法と技術				
第９回：進路指導の計画と実践				
第１０回：生徒の問題行動の特徴と支援				
第１１回：雇用に関する基礎的法律（厚生労働省資料）				
第 12 回：開かれた教育課程と職業教育（学習指導要領より職業選択のアセスメント（演習）				
第１３回：高校生の求人制度と求人票の見方				
第１４回：個人面接の指導方法（演習）				
第１５回：職業指導の模擬授業（ロングホームの設定） 今後の課題、まとめ				
第１６回：定期試験				
キーワード		キャリア教育 進路指導 職業指導		
教科書		『生徒指導・進路指導・キャリア教育論』 図書文化出版 横山 明子 編著		
参考書		「高等学校学習指導要領・解説」（総則、特別活動、商業） 文部科学省 厚生労働省等の資料		

	全国高等学校進路指導協議会の資料 労働局の資料
評価方法・評価基準	5分間スピーチ 20% 課題レポート 20% 擬授業等 10% 期末試験 50%
関連科目	教職課程に関する科目
履修要件	なし
必要な事前・事後学修	新聞・ニュースなど等での経済や世界情勢並びに職業に関する最新情報について関心を持つこと。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり ①商業の専門高校で30年余り、商業科教員としての実務経験。 ②進路指導主任として長年指導に携わってきた。③管理職（校長）として、教員への指導経験。 ④若者サポートステーション総括チーフとして勤務経験（キャリアコンサルタントの免許有）
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項 職業指導
その他	高等学校教諭（商業）の免許状を取得するための必修科目 集中講義での実施なので欠席をしないこと。

職業指導論（農業）

Vocational Guidance

担当教員名 津野 佑規			
科目区分 教職 教科『農業』の免許は必修	授業方法 講義	授業の実施方法 遠隔授業	対象学年 1～4年
開講期 前期集中	単位数 2	オフィスアワー	授業の前後に質問等を受け付けます。
メールアドレス	tsuno@fukui-nct.ac.jp		
授業概要	職業指導とは生徒に職業選択や職業適性に関する支援を行う教育活動で、今日では進路指導・キャリア教育と言われている。職業指導は、単に就職指導・進学指導に限定されるものではなく、それぞれの生徒の自己実現に向けて、人間としてのあり方や生き方について考えさせなければならない。本講座では、社会状況の分析や職業についての考察を通じて、「職業指導」の意義を考え、職業指導の歴史的背景や実践について学習する。		
到達目標	1 学校教育における職業指導の在り方や意義を理解し、生涯にわたる職業観を育む指導ができる。 2 キャリア・カウンセリングの基礎知識を理解し、クラス担任または進路指導担当として生徒の進路指導が的確にできる。		
授業計画・内容			
第1回：授業ガイダンス、職業とは 第2回：人間社会と職業 第3回：若者の現状と社会情勢 第4回：高まる学校教育への期待、学習指導要領（農業、特別活動） 第5回：職業高校の今日の状況、課題と取り組み 第6回：職業意識形成の取り組み、中退・卒業後の支援 第7回：職業指導の意義、必要性 第8回：職業適性、個性、興味・関心と職業選択 第9回：職業指導の歴史的経緯 第10回：諸外国の職業教育 第11回：小中学校におけるキャリア教育 第12回：高等学校におけるキャリア教育（職業高校の取り組み） 第13回：キャリアカウンセリングの理論と技法 第14回：国民の勤労権と職業保障 第15回：進路指導の今後の課題、まとめ 第16回：定期試験 ※1：遠隔授業ではZ o o m、G Cを併用する。 ※2：必要に応じて対面授業や現場見学を実施する予定であるが、実施日は事前に連絡する。			
キーワード	キャリア教育 進路指導 職業指導		
教科書	特に指定しない。（適宜資料を配布）		
参考書	「高等学校学習指導要領・解説」（総則、特別活動、農業） 文部科学省 「キャリア教育ガイドブック」 経済産業省 「新時代のキャリア教育と職業指導」 佐藤史人ほか 法律文化社 など		

評価方法・評価基準	試験(40%)、レポート(40%)、授業への取組<主体的な取組態度、対話能力、出席状況など>(20%)を総合的に判定する。試験やレポートから知識の理解と習得の度合い、思考・判断・表現力、授業への取組状況から主体性、関心、対話力を評価する。
関連科目	教職課程に関する科目
履修要件	なし
必要な事前・事後学修	新聞等で教育、職業に関する最新情報について関心を持つ。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 職業高校での勤務経験を活かして、職業指導に関する実務的な指導を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項 職業指導
その他	高等学校教諭（農業）の免許状を取得するための必修科目 準備学習については、教員が講義時に指示する

教育原理・教育課程論

Principle of Education

担当教員名 國崎 大恩				
科目区分 教職 必修		授業方法 講義	授業の実施方法 遠隔授業（ハイフレックス）	対象学年 1・2・3 年
開講期 後期		単位数 2	オフィスアワー	木曜日 3 限 経済学部棟 4 階 407
メールアドレス		taion@fpu.ac.jp		
授業概要	本授業は、現代の教育・学校教育を取りまく多様な事象やシステムを教育思想史の観点から概説することで、教育の理念や歴史に関する理解を深めるとともに、現代的な教育課題を理論的・客観的に考察していく。また、教育課程の編成に関する具体的事例の考察を通して、学校において編成される教育課程の意義や編成の方法、とりわけカリキュラム・マネジメントの意義と方法について理解を深める。			
到達目標	1) 教育や学校に関わる思想を参照しながら、教育の本質及び目標について説明できる。 2) 教育や学校の歴史をふまえ、現代における教育課題について説明できる。 3) 具体的事例を通して、効果的な指導にむけたカリキュラム編成について説明できる。 4) カリキュラム・マネジメントに基づいて実践を改善する方法について説明できる。			
授業計画・内容				
第 1 回：現代における教育と学校教育－家族・地域・国家による教育と社会の中の教育課程 第 2 回：教育の本質と目標①－教育と「子育て」の関係性 第 3 回：教育の本質と目標②－学習・人間形成と家庭・国家・社会 第 4 回：教育の思想と歴史①－家族・共同体の教育的機能とその変遷 第 5 回：教育の思想と歴史②－〈子ども〉の誕生と近代の教育的まなざし 第 6 回：教育の思想と歴史③－近代教育学における理論と実践の問題 第 7 回：教育の思想と歴史④－新教育運動と子どもの経験の重視 第 8 回：教育の思想と歴史⑤－日本における学校教育の成立とその展開 第 9 回：教育課程の意義－教育課程と学習指導要領 第 10 回：教育課程の役割と機能－〈社会に開かれた教育課程〉とヒドゥン・カリキュラム 第 11 回：教育課程の編成事例①－教育課程の編成原理 第 12 回：教育課程の編成事例②－教科・領域を横断する教育課程 第 13 回：教育課程の編成事例③－単元・学期・学年をまたいだ教育課程 第 14 回：カリキュラム・マネジメント－教育改善の PDCA サイクル 第 15 回：カリキュラム・マネジメントの実践－事例を通して見る成果と課題 定期試験 ※遠隔授業となった場合は zoom によるオンライン授業を実施します				
キーワード	近代教育、近代公教育、社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント			
教科書	『実践につながる教育原理』國崎大恩・藤川信夫編著、北樹出版、2022 年			
参考書	『学習指導要領』文部科学省、『学習指導要領解説 総則編』文部科学省 (教科の教員免許取得を希望する学生は高等学校、養護教諭免許取得希望者は小学校のものを参照すること)			
評価方法・評価基準	以下の評価基準に関して、試験(60%)とポートフォリオ(40%)により総合的に評価する。 1) 教育や学校に関わる思想を参照しながら、教育の本質及び目標について論理的・客観的に説明できる。			

	2)教育や学校の歴史をふまえ、現代における教育課題について歴史的観点から説明できる。 3)具体的事例を通して、効果的な指導にむけたカリキュラム編成について具体的に説明できる。 4)カリキュラム・マネジメントに基づいて実践を改善する方法について客観的に説明できる。 ※遠隔時は定期試験をオンラインにより実施する。
関連科目	教育心理学、教育社会学、教育制度論、教育方法論、教師論、教育史
履修要件	教員免許状の取得を前提に授業をおこないます
必要な事前・事後学修	事前学修：事前に配布する資料を理解し、自分なりに授業のねらいを明確にする。 事後学修：各授業内容をふまえたポートフォリオを作成する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 学校現場において教員経験のある教員が、その経験を活かして、具体的な場面を想定して講義をおこなう
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む)
その他	教職の基盤となる科目です。積極的な受講態度を期待しています。

教育史

History of Education

担当教員名 國崎 大恩				
科目区分 教職 選択		授業方法 講義・演習	授業の実施方法 遠隔授業（ハイフレックス）	対象学年 1・2・3・4 年
開講期 前期		単位数 2	オフィスアワー	木曜日 3 限 経済学部棟 4 階 407
メールアドレス		taion@fpu.ac.jp		
授業概要	本授業は、教育や学校に関する思想史的理解を深めるため、主に近代以降の教育と学校の変遷について講義及びグループ・ディスカッションを行う。 具体的には、「近代教育の誕生」、「学校教育と新教育運動」、「近代教育批判」という 3 つの大きなテーマに分けて全 15 回の授業を行い、現代の学校教育が抱える諸課題を近代教育という大きな歴史的流れのなかに位置づけながら考察していく。			
到達目標	教育思想史の観点から教育の理念について理解を深めるとともに、教育及び学校の営みを客観的に捉える視点をもつことが本授業の目標である。具体的な到達目標は次の通りである。 1) 教育の歴史及び思想に関する基礎的概念について説明することができる。 2) 教育及び学校の変遷について説明することができる。 3) 代表的な教育思想家の考えに基づいて現代における教育課題を考えることができる。			
授業計画・内容				
第 1 回：切断／接続としての「近代」－教育と学校をめぐる大転換－ 第 2 回：近代教育の誕生①－コメニウスの『大教授学』と『世界図絵』－ 第 3 回：近代教育の誕生②－ロックの「ジェントルマン教育論」と「貧民教育論」－ 第 4 回：近代教育の誕生③－ルソーの「市民教育論」と『エミール』－ 第 5 回：グループ・ディスカッション①－近代教育の構造とは何か－ 第 6 回：学校教育と新教育運動①－ペスタロッチの「メトード」という発想－ 第 7 回：学校教育と新教育運動②－ヘルバルトとヘルバルト学派教育学－ 第 8 回：学校教育と新教育運動③－新教育運動の隆起とその背景－ 第 9 回：学校教育と新教育運動④－アメリカ及びヨーロッパにおける新教育運動の展開－ 第 10 回：グループ・ディスカッション②－学校教育の発展とその課題－ 第 11 回：近代教育批判①－近代教育への疑義－ 第 12 回：近代教育批判②－フーコーの権力分析と学校・病院・監獄－ 第 13 回：近代教育批判③－正統的周辺参加論と共同体による教育－ 第 14 回：近代教育批判④－ポストモダン思想と近代教育の(非)接合－ 第 15 回：グループ・ディスカッション③－現代的教育課題の思想的・歴史的起源－ ※遠隔授業となった場合は zoom によるオンライン授業を実施します				
キーワード	「子ども」の誕生、re-presentation(再提示)、近代教育批判			
教科書	授業毎に資料を配付する。			
参考書	『教育思想史』今井康雄編、有斐閣、2009 年。			
評価方法・評価基準	以下の評価基準に照らして、期末レポート(50%)、ミニレポート(30%)、グループ・ディスカッション(20%)により総合的に評価する。遠隔時も評価方法・基準に変更はありません。 1) 教育の歴史及び思想に関する基礎的概念について論理的に説明することができる。			

	2)教育及び学校の変遷について歴史的に説明することができる。 3)代表的な教育思想家の考えに基づいて現代における教育課題を客観的に説明することができる。
関連科目	教育原理、教育心理学、教育社会学、教育制度論、教育方法論、教師論
履修要件	
必要な事前・事後学修	事前学修：事前に配布する資料を理解し、自分なりに授業のねらいを明確にする。 事後学修：各授業内容をふまえたポートフォリオを作成する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 学校現場において教員経験のある教員が、その経験を活かして、具体的な場面を想定して講義をおこなう
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
その他	教育原理等で学んだ知識をふまえ、思想史的観点からアクティブラーニングをベースに授業を展開します。

教師論

Indispensable Properties of Teachers

担当教員名 國崎 大恩				
科目区分 教職 必修		授業方法 講義	授業の実施方法 遠隔授業（ハイフレックス）	対象学年 1・2・3年
開講期 前期		単位数 2	オフィスアワー	木曜日 3限 経済学部棟 4階 407
メールアドレス	taion@fpu.ac.jp			
授業概要	社会の変化とともに教職の重要性はますます高まりつつある。そこで本授業では、教職の意義や教師の役割・職務内容等について幅広く理解し、教職への意欲を高めるとともにその基礎的な資質能力を身につけられるよう、現在の教師や学校を取り巻く複雑な状況を講義及びグループディスカッションを通じて解きほぐしていく。			
到達目標	本授業は現代における教職の意義及び教員の役割・職務内容等について理解することをその目標とする。 1)今日の学校教育や教職の社会的意義について説明することができる。 2)学校教育を取りまく環境の変化をふまえ、教員に求められている役割や資質・能力について説明することができる。 3)教員の職務内容について理解し、その職責について説明することができる。 4)チーム学校運営の重要性を理解し、その連携のあり方について説明することができる。			
授業計画・内容				
第1回：イントロダクションー「教師になる」とはどういうことかー 第2回：近代公教育と教師の社会的意義ー学校教育の成立とその変遷を通してー 第3回：「教師」という職業ー子どもを支える多様な職業のなかでー 第4回：教職観の変遷ー「金八先生」から「GT0」へと至る教職イメージの変遷ー 第5回：現代における教員の役割ー2つの「GT0」から考えるー 第6回：学校を取りまく環境の変化と今日の教員に求められる資質・能力 第7回：グループディスカッション①ー教職の意義と教員の役割をめぐってー 第8回：教師の「多忙」な生活ー多様な職務内容とその遂行ー 第9回：学校という組織のあり方ー「校務分掌」と「主幹教諭」・「指導教諭」ー 第10回：教師に「できること」と「できないこと」ー学校現場の実情を通してー 第11回：教員の資質能力向上を支えるシステムー「学び続ける」教員とその職能成長ー 第12回：「全体の奉仕者」としての教師ー「身分上の義務」と「職務上の義務」をめぐってー 第13回：学校内外の多様な専門性を活かすこれからの学校教育ー「学級王国」から「連携・協働」へー 第14回：グループディスカッション②ー「チーム学校」における教師の意義と職務・役割ー 第15回：まとめー「教師である」ことのアポリアー ※遠隔授業となった場合は zoom によるオンライン授業を実施します				
キーワード	教職の意義、教員の役割、教員の職務内容、チーム学校			
教科書	適宜、授業プリントを配布する			
参考書	『学習指導要領』文部科学省、『学習指導要領解説 総則編』文部科学省 (教科の教員免許取得を希望する学生は高等学校、養護教諭免許取得希望者は小学校のものを参照すること)			
評価方法・評価基準	評価方法：学習ポートフォリオ(40%)、期末レポート(60%) 評価基準：授業目標に掲げた4観点について総合的に評価を行う。 ※遠隔時も評価方法・評価基準に変更はありません			

関連科目	教育原理、教育制度論、教育社会学、教育史
履修要件	
必要な事前・事後学修	事前学修：事前に配布する資料を理解し、自分なりに授業のねらいを明確にする。 事後学修：各授業内容をふまえたポートフォリオを作成する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 学校現場において教員経験のある教員が、その経験を活かして、具体的な場面を想定して 講義をおこなう
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)
その他	教育原理等で学んだ知識をふまえ、学校現場の観点からアクティブラーニングをベースに 授業を展開します。

商業科教育法 I

Methods of Commercial Education I

担当教員名 北本 泰則				
科目区分 教職 必修		授業方法 講義	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1・2・3 年
開講期 前期集中		単位数 2	オフィスアワー	授業の前後及びメール・Z o o m等にて対応する
メールアドレス		kita1107@tvk.ne.jp		
授業概要		(1) 商業教育を取り巻く課題及び必要性等について講義する。 (2) 高等学校学習指導要領商業編の解説と商業教育について講義する。 (3) 商業科の目標および商業各科目の目標・指導内容について講義する。 (4 商業科目の教材研究と指導方法を講義する。		
到達目標		(1) 高等学校学習指導要領の内容を理解する。 (2) 各分野の商業科目の目標・指導内容を理解する。 (3) 教材研究と指導研修を通して、教科の知識・実践的な指導力を身に付ける。		
授業計画・内容				
※遠隔授業となった場合は、Z o o mによる授業とする				
第 1 回：商業教育の現状と課題				
第 2 回：第 1 章 商業教育の意義と必要性				
第 3 回：第 3 章 高等学校学習指導要領と商業教育				
第 4 回：第 4 章 商業科の教育課程の編成と実施				
第 5 回：第 5 章 商業科の学習指導				
第 6 回：第 6 章 各分野の学習指導「基礎科目」				
第 7 回：第 6 章 各分野の学習指導「マーケティング分野」				
第 8 回：第 6 章 各分野の学習指導「マネジメント分野」				
第 9 回：第 6 章 各分野の学習指導「会計分野」				
第 10 回：第 6 章 各分野の学習指導「ビジネス情報分野」				
第 11 回：第 6 章 各分野の学習指導「総合的科目」				
第 12 回：教材研究と指導研修 ビジネス基礎の指導				
第 13 回：教材研究と指導研修 情報処理の指導				
第 14 回：教材研究と指導研修 簿記会計の指導				
第 15 回：資格取得と進路指導について				
キーワード		学習指導要領、学習指導方法、教材研究、資格取得、教員免許状取得		
教科書		商業科教育論 日本商業教育学会 発行実教出版株式会社		
参考書		「高等学校学習指導要領解説商業編」文科省発行実教出版株式会社		
評価方法・評価基準		3 分スピーチ 1 5 % 課題レポート 35% 期末試験 50%で評価する。 遠隔授業の場合も評価方法は同様とする。		
関連科目		経済・経営などの商業科目との連絡を密にする。		
履修要件		なし		
必要な事前・事後学修		事前・事後学習については教員がメールまたは講義時に指示する。		

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 商業の専門高校で 30 年余り、商業科教員としての実務経験。 管理職（校長）として、教員への指導経験。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）
その他	授業でプリント及び関連資料を配布する。

農業科教育法 I

Methods of Agricultural Education I

担当教員名 津野 佑規			
科目区分 教職 必修	授業方法 講義	授業の実施方法 遠隔授業	対象学年 1～4年
開講期 前期	単位数 2	オフィスアワー	授業の前後に質問等を受け付けます。
メールアドレス	tsuno@fukui-nct.ac.jp		
授業概要	高等学校農業科教育への情熱と使命感を持ち、専門的な識見と実践力を備えた農業科教員の育成を目的とする。農業科教育の理念と目標を踏まえ、高等学校学習指導要領における農業の各科目の内容や構成を体系的に学習する。また、農業高校の事例研究や農業に関する各種情報も活用して、生きた農業科教育を実践できるよう展開する。		
到達目標	1 高等学校学習指導要領に示された教科「農業」の理念と目標を理解し説明できる。 2 各科目の構成と内容を理解し、必要な教材を選定活用できる。 3 実験実習やプロジェクト学習を生かした学習指導ができる。		
授業計画・内容			
第1回：農業科教育法Ⅰの概要－講座内容・講座計画 第2回：農業教育について(1)－農業教育の歴史、目的 第3回：農業教育について(2)－農業教育の在り方、農業教師に求められるもの 第4回：学習指導(1)－農業科における学習指導の過程と農業実験・実習における学習指導 第5回：学習指導(2)－農業教育における学校農業クラブ活動の位置付け 第6回：学習指導(3)－農業教育における特色ある取組、地域との連携 第7回：学習指導(4)－農業教育の活性化策 第8回：学習指導(5)－農場における農業実習の実践 第9回：教育課程の編成(1)－農業科の目標、農業教科・科目の構成 第10回：教育課程の編成(2)－教育課程編成の基本、県内農業高校の教育課程 第11回：教育課程の編成(3)－人材育成の視点からの教育課程編成 第12回：農業学習の教育評価－教育評価の性質、農業学習における学習評価の対象と規準 第13回：農業科教員の服務－服務と関係法令－学校教育法、産業教育手当、産業教育振興法 第14回：農業教育の施設・設備および管理－意義、学校農場の性格、施設・設備の管理 第15回：農業教育の展望と課題－日本農業の現状を踏まえた今後の農業教育 第16回：定期試験 ※1：遠隔授業ではZ o o m、G Cを併用する。 ※2：必要に応じて対面授業や現場見学を実施する予定であるが、実施日は事前に連絡する。			
キーワード	農業教員免許、農業教育、高等学校学習指導要領、教育課程、プロジェクト学習法、学校農業クラブ活動		
教科書	「高等学校学習指導要領 農業編」(文部科学省) 「高等学校学習指導要領解説書 農業編」(文部科学省)		
参考書	「月刊 産業と教育」(実教) (授業中に適宜資料を配付する。)		
評価方法・評価基準	試験(40%)、レポート(40%)、授業への取組<主体的な取組態度、対話能力、出席状況など>(20%)を総合的に判定する。試験やレポートから知識の理解と習得の度合い、思考・判断・表現力、授業への取組状況から主体性、関心、対話力を評価する。		

関連科目	農業科教育法Ⅱ、教職課程に関する科目群
履修要件	教育改革等に関する最新の情報及び我が国や海外の農業や農政等について関心を持ち、事前学習をしておくことが望ましい。
必要な事前・事後学修	高等学校学習指導要領農業編および高等学校学習指導要領解説書農業編の学習
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 農業高校での勤務経験を活かして、農業教育に関する実務的な指導を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）
その他	高等学校教諭（農業）の免許状を取得するための必修科目

水産科教育法 I

Method of Fisheries Education I

担当教員名 小坂 康之			
科目区分 教職 必修	授業方法 講義・実習・実技	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1・2・3 年 (小浜)
開講期 前期集中	単位数 2	オフィスアワー	若狭高校勤務のため、来校すればいつでも対応します。
メールアドレス	kosakayy@yahoo.co.jp		
授業概要	皆さんは、海にあこがれ、海の研究や学びを通じて成長している実感があると思います。水産科教員は、同様に海を通じて子供たちを育成できる魅力ある仕事であります。本授業では、地域の実情に合わせながら地域活性化や研究活動など幅広く活躍することができる水産、海洋系高校の魅力的な教育を学びます。教科指導上必要な技術や理論についても学び、資格（小型船舶、潜水士、ダイビングなど）について必要であれば指導も行います。現場で行われている最新の教育内容、研究について講義や実地見学を通じて学びます。		
到達目標	日本および世界の水産海洋教育を支える教員の育成を目的とします。テーマは、「水産海洋教育の魅力に迫る」。水産科教員希望者はもちろんのこと水族館や学芸員を目指す生徒にも重要となる教育理論や実践を学ぶことができます。		
授業計画・内容			
第1回：水産・海洋系高等学校の教育の魅力（国内・海外） 第2回：水産・海洋系高等学校の可能性・教員になるには 第3回：新学習指導要領について 第4回：新学習指導要領と水産海洋教育の可能性 第5回：最新の教育内容（目標に準拠した評価方法） 第6回：最新の教育内容（主体性自主性を育てる教育） 第7回：最新の教育内容（水産海洋教育の世界の現場から） 第8回：「先進地見学」若狭高等学校 見学（教員との協議） 第9回：「先進地見学」若狭高等学校 見学（生徒との協議） 第10回：海外の海洋教育現場と議論する（教員と協議・zoomを使用） 第11回：海外の海洋教育現場と議論する（生徒と協議・zoomを使用） 第12回：授業づくりとは 模擬研究授業 第13回：授業づくりとは 模擬研究授業 第14回：授業づくりとは 模擬研究授業 第15回：授業づくりとは 模擬研究授業 * 遠隔授業となった場合は、zoomを使用して実施する。			
キーワード	水産教員 授業づくり 海洋教育		
教科書	学校を改革する（岩波ブックレット） 佐藤学 さばの缶づめ、宇宙へいく（イーストプレス）小坂康之・林公代 「高等学校学習指導要領 解説 水産編」 文部科学省HPよりダウンロード印刷してくること		
参考書	授業中に適宜提示する		
評価方法・評価基準	レポート（50%）、授業中に行う授業づくりの計画書（50%） * 遠隔授業となった場合は、メールで提出、提出物を評価する。		

関連科目	水産科教育法Ⅱ
履修要件	実技を伴うため出席をすること
必要な事前・事後学修	教科書・学習指導要領を読んでくること。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 福井県立若狭高等学校現職水産教員
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)
その他	準備学習については、教員が講義時に指示する。

公民科教育法Ⅰ

Methods of Civic Education I

担当教員名 杉浦 真理			
科目区分 教職 必修	授業方法 講義・演習	授業の実施方法 遠隔授業	対象学年 1・2・3 年
開講期 前期集中	単位数 2	オフィスアワー	授業の前後に質問等を sugiura@ujc.ritsume.ac.jp で受けつける。
メールアドレス	sugiura@ujc.ritsume.ac.jp		
授業概要	中学高校の公民系科目の授業をできるように準備する。その際、中高の社会科公民分野で必要な授業内容、授業方法を身につける。そのために、知識、技能を身につける。平和と民主主義にかかわるテーマに関心を持ち、その内容を教えられるようにする。		
到達目標	1 公民系授業のヒントをつかむ 2 自ら授業を計画し、実践できるようにする 3 公民系科目に関わり、生徒の社会認識を育てる社会課題を知る 4 持続可能な社会の主権者になる教育者に育てる視点方法を養う		
授業計画・内容			
第1回：君たちの受けてきた公民科教育とは 第2回：高等学校学習指導要領公民科を読む 第3回：「公共」と公民科教育 現代の諸課題と倫理 第4回：シティズンシップを育む主権者教育 第5回：模擬授業にむけて：年間指導計画、学習指導案の作成と授業の要件 第6回：「公共」の構成と展開 第7回：「倫理」の構成と展開 第8回：実際の授業例を通して、授業づくりを考える 第9回：模擬授業① 学習指導案作成し授業を行う。その授業の研究協議を行う 第10回：模擬授業② 学習指導案作成し授業を行う。その授業の研究協議を行う 第11回：模擬授業③ 学習指導案作成し授業を行う。その授業の研究協議を行う 第12回：日本国憲法と教育基本法 第13回：模擬授業④ 学習指導案作成し授業を行う。その授業の研究協議を行う 第14回：模擬授業⑤ 学習指導案作成し授業を行う。その授業の研究協議を行う 第15回：SDGs教育は、公共のC項目 持続可能な社会づくりの主体を育てる ※ZOOMによるオンライン授業			
キーワード	公共 主権者教育 教材研究 SDGs教育 探究学習		
教科書	杉浦真理編著『未来の市民を育む「公共」の授業』大月書店（2020）		
参考書	杉浦真理『シティズンシップ教育のすすめ』（2013）法律文化社		
評価方法・評価基準	授業内課題（50%）と指導案作成レポート（50%） 講義内容の達成度を評価します。		
関連科目	公民科教育法Ⅱ、教職課程における教職に関する科目群		
履修要件	特になし		
必要な事前・事後学修	事前学習は、テキストを読み自分の授業のやりたい授業箇所を事前に授業担当にメールする先着順に決めます。事後学習として配布された資料はその日のうちに目を通してまとめておくこと		

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 中高社会科教諭を４０年以上継続して務めている
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)
その他	憲法、経済学、政治学、社会学、倫理学、哲学等の入門講義を前後で履修するとよい

商業科教育法Ⅱ

Methods of Commercial EducationⅡ

担当教員名 北本 泰則				
科目区分 教職 必修		授業方法 講義・演習	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1・2・3・4年
開講期 後期集中		単位数 2	オフィスアワー	授業の前後及びメール・Zoom 等にて対応する
メールアドレス		kita1107@tvk.ne.jp		
授業概要	(1) 授業の指導形態と指導法など授業運営について講義する。 (2)学習指導案作成や模擬授業を行うことにより実践的な指導力と専門性を身に付ける。 (3)商業高校におけるキャリア教育について講義する。 (4)これからの商業科教員に必要とされる資質や姿勢などを講義する。			
到達目標	(1) 授業の指導形態と学習指導方法を修得する。 (2) 指導計画及び学習指導案の作成を通して、授業設計を修得する。 (3) 模 擬 授 業 を 通 して 、 教 員 に 必 要 な 知 識 と 技 能 を 修 得 す る 。 (4) 商業科教員としての資質・態度等を身につける。			
授業計画・内容				
※遠隔授業となった場合は、Zoomによる授業とする				
第 1 回：指導形態と指導方法①(話し方・板書・授業運営)				
第 2 回：指導形態と指導方法②(ICT の活用、各種のアクティブラーニング方法等)				
第 3 回：第 7 章指導計画と第 5 章学習指導（アクティブラーニングの学習指導）				
第 4 回：第 8 章学習評価				
第 5 回：学習指導案の作成①				
第 6 回：学習指導案の作成②				
第 7 回：模擬授業と事後指導①「ビジネス基礎」				
第 8 回：模擬授業と事後指導②「ビジネス基礎」				
第 9 回：模擬授業と事後指導③「マーケティング」				
第 10 回：模擬授業と事後指導④「簿記会計」				
第 11 回：模擬授業と事後指導⑤「簿記会計」				
第 12 回：模擬授業と事後指導⑥「情報処理」				
第 13 回：全国の商業高校の実践的取り組み				
第 14 回：商業教育を通してのキャリア教育				
第 15 回：教育現場で必要とされる商業教員の資質と態度				
キーワード	学習指導方法 模擬授業 教材研究 学習評価 教員免許状取得			
教科書	商業科教育論 日本商業教育学会 発行実教出版株式会社			
参考書	「高等学校学習指導要領解説商業編」文科省発行実教出版株式会社			
評価方法・評価基準	5 分間スピーチ 10% 学習指導案 2 0 % 模擬授業の評価 2 0 % 期末試験 50% で評価する。 遠隔授業の場合も評価方法は同様とする。			
関連科目	商業科教育法Ⅰ、教職課程における教職に関する科目群			
履修要件	「商業科教育法Ⅰ」を履修済み、あるいは履修予定であること			

必要な事前・事後学修	事前・事後学習については教員がメールまたは講義時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 商業の専門高校で 30 年余り、商業科教員としての実務経験。 管理職（校長）として、教員への指導経験。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）
その他	授業でプリント及び関連資料を配布する。

農業科教育法Ⅱ

Methods of Agricultural Education Ⅱ

担当教員名 津野 佑規				
科目区分 教職 必修		授業方法 講義・演習	授業の実施方法 遠隔授業	対象学年 1～4年
開講期 後期		単位数 2	オフィスアワー	授業の前後に質問等を受け付けます。
メールアドレス		tsuno@fukui-nct.ac.jp		
授業概要	農業科教育法Ⅰの内容を深化させ、原則履修科目「農業と環境」における指導計画、学習指導案等の作成や模擬授業を通して、農業科教育の実践的な指導能力と指導技術の習得をめざす。また、教材作成や模擬授業の中で、情報機器、視聴覚教材の効果的な活用方法を研究する。			
到達目標	1 「農業」に関する学習内容について理解し、学習指導への位置づけを考察できる。 2 原則履修科目「農業と環境」における年間指導計画案を作成できる。 3 授業の目的、内容、教材に即した学習指導案が作成できる。 4 教科「農業」の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業に活用できる。			
授業計画・内容				
第1回：農業科教育法Ⅱの概要－講座内容・講座計画 第2回：学校現場における農業教育実践の現状と課題 第3回：学習指導の類型(1)－授業形式と学習内容からみた農業学習指導の分類 第4回：学習指導の類型(2)－農業科のプロジェクト学習法による学習指導－事例と研究 第5回：学習指導の類型(3)－学校農業クラブ活動による学習指導－意義、目標、組織と活動 第6回：学習指導計画の作成(1)－学習指導計画の意義、学習指導計画作成の前提、学習指導計画の具体例と作成 第7回：学習指導計画の作成(2)－年間指導計画案の作成と検証 第8回：学習指導計画の作成(3)－年間指導計画案の作成と検証 第9回：学習指導計画の作成(4)－単元指導計画案の作成と検証 第10回：学習指導計画の作成(5)－単元指導計画案の作成と検証 第11回：学習指導案の作成と授業の進め方(1)－学習指導案の作成、ICTを活用した授業の進め方 第12回：学習指導案の作成と授業の進め方(2)－教材づくりのポイント、教材作成 第13回：授業実践・研究協議(1)－模擬授業、自己評価とグループ評価 第14回：授業実践・研究協議(2)－模擬授業、自己評価とグループ評価 第15回：授業実践・研究協議(3)－模擬授業、自己評価とグループ評価 第16回：定期試験 ※1：遠隔授業ではZoom、GCを併用する。 ※2：必要に応じて対面授業や現場見学を実施する予定であるが、実施日は事前に連絡する。				
キーワード	学習指導計画、学習指導案、模擬授業、ICT活用、教員採用試験、教育実習			
教科書	「高等学校学習指導要領 農業編」(文部科学省) 「高等学校学習指導要領解説書 農業編」(文部科学省)			
参考書	授業中に適宜資料を配付する。			
評価方法・評価基準	レポート(50%)、模擬授業の内容と発表(30%)、授業への取組<主体的な取組態度、対話能力、出席状況など>(20%)を総合的に判定する。レポートや模擬授業の実践から知識・技術			

	の習得の度合い、表現力など、授業への取組状況から主体性、関心、対話力を評価する。
関連科目	農業科教育法Ⅰ、教職課程に関する科目群
履修要件	農業科教育法Ⅰを履修していること。
必要な事前・事後学修	高等学校学習指導要領農業編および高等学校学習指導要領解説書農業編の学習
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 農業高校での勤務経験を活かして、農業教育に関する実務的な指導を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）
その他	高等学校教諭（農業）の免許状を取得するための必修科目

水産科教育法Ⅱ

Method of Fisheries Education Ⅱ

担当教員名 小坂 康之			
科目区分 教職 必修	授業方法 講義・演習・実技	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1・2・3・4年(小浜)
開講期 後期集中	単位数 2	オフィスアワー	若狭高校勤務のため、来校すればいつでも対応します。
メールアドレス	kosakayy@yahoo. co. jp		
授業概要	高校水産海洋教育の現状をふまえた上で、今後の水産教育および水産・海洋系高校の問題点や今後の在り方について考え、日本および世界のこれからの水産海洋教育についてのビジョンを自分の言葉で熱く語ることができるような知識を身につける。		
到達目標	魅力ある水産海洋教育の指導者を育成すること。水産科教員希望者はもちろんのこと水族館や学芸員を目指す生徒にも重要となる教育理論や実践を学ぶ。		
授業計画・内容			
第1回：水産海洋教育の意義と役割 第2回：授業づくりの理論（自らの学びを振り返る） 第3回：授業づくりの理論（自らの学びを語る） 第4回：授業づくりの理論（自らの学びを聞く） 第5回：授業づくりの理論（自らの学びを省察する） 第6回：授業づくりの実践「学習指導案の見方」 第7回：授業づくりの実践「学習指導案の作り方」 第8回：授業づくりの実践「学習指導案の作成」 第9回：授業づくりの実践「学習指導案の評価」 第10回：授業づくりの実践「模擬授業の実施」 第11回：授業づくりの実践「模擬授業の見学」 第12回：授業づくりの実践「模擬授業の内容を振り返る」 第13回：授業づくりの理論「水産食品分野の実践事例を知る」 第14回：授業づくりの理論「海洋生物分野の実践事例を知る」 第15回：授業づくりの理論「海洋技術分野の実践事例を知る」 * 遠隔授業となった場合は、zoom を使用して実施する。			
キーワード	水産教員 授業づくり 海洋教育		
教科書	「高等学校学習指導要領解説水産編」文部科学省 HP よりダウンロード印刷してくること		
参考書	授業中に適宜提示する		
評価方法・評価基準	レポート（50%）、授業中に行う授業づくりの計画書（50%） * 遠隔授業となった場合は、メールで提出、提出物を評価する。		
関連科目	水産科教育法Ⅰ		
履修要件	実技を伴うため出席をすること		
必要な事前・事後学修	特になし		

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 福井県立若狭高等学校現役水産教員
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)
その他	準備学習については、教員が講義時に指示する。

公民科教育法Ⅱ

Methods of Civic Education Ⅱ

担当教員名 佐藤 功			
科目区分 教職 必修	授業方法 講義・演習・実習	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1・2・3・4年
開講期 後期集中	単位数 2	オフィスアワー	授業の前後に質問等を受けつける。
メールアドレス	taikanokaisin@kd6. so-net. ne. jp		
授業概要	「18 歳」が主権者としての政治的判断力を持てるよう、社会科・公民科が単なる暗記事項でなく、社会にかかわることが「自分のこと」として考えられる——民主的社会を担う市民として自立するための授業づくりを、模擬授業と専門家インタビュー等をふんだんに行うなかで実践的に学ぶ。		
到達目標	中学校社会科および、高等学校の公民分野に関する目標と内容を理解できる。また、指導方法と授業設計について、模擬授業等を通して実践的技能を身につけられる。とりわけ、「望んだわけでもないのに勝手に 18 歳選挙権が与えられ、投票に行かなければまた『最近の若者は……』と非難されてすごく迷惑」(ある現役高校生の声)という考えに自分なりの答えを出せる、18 歳成人時代の公民科教育の担い手となる。		
授業計画・内容			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーションおよび班分け、テーマ設定、アイスブレイク			
第 2 回：学習指導要領における中学社会科・高校公民科の目標と内容/主権者教育とは何か			
第 3 回：主権者教育の実際 /グループワークの創造			
第 4 回：教材作成演習 18 歳を「大人にする」ための実践演習①（地域課題解決のための専門家インタビュー）			
第 5 回：教材作成演習 18 歳を「大人にする」ための実践演習②（請願作成のための政治家インタビュー）			
第 6 回：「主権者教育」授業をつくる/模擬授業①（専門家インタビューレポート発表）			
第 7 回：「主権者教育」授業をつくる/模擬授業②（政治家インタビューレポート発表）			
第 8 回：中学社会科・高校公民科における教材の特徴と情報機器の活用			
第 9 回：学習指導案の作成/教材作成演習 中学社会科・高校公民科における生徒の実態			
第 10 回：教材作成演習 情報機器を活用した探究的公民授業の創造①（テーマ設定）			
第 11 回：教材作成演習 情報機器を活用した探究的公民授業の創造②（指導案（細案と略案）作成）			
第 12 回：情報機器を活用した探究的公民授業をつくる/模擬授業③（授業実技）			
第 13 回：情報機器を活用した探究的公民授業をつくる/模擬授業④（相互評価）			
第 14 回：今後の公民科授業づくりにかかわる実践的研究の動向			
第 15 回：まとめ・テーマレポート相互評価			
※遠隔授業時：ZOOM によるリアルタイムオンライン授業			
キーワード	主権者教育、模擬授業、模擬請願、模擬選挙、ICT、オンライン教材、学習指導要領		
教科書	必要な資料を、適宜配布する。		
参考書	参考書・参考資料等 文部科学省「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説」及び「高等学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領解説」（いずれも最新版）、国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（中学校社会、高等学校公民）。以上の資料は全てインターネット上で入手できる。このほか、適宜、参考となる書籍・資料等を紹介する。		
評価方法・評価基準	授業中およびグループ活動による評価 70%、レポート・提出物等による評価 30%。		

	2 度の模擬授業発表は単位修得の必須とする。(模擬授業担当時の欠席は不可) ※遠隔時：評価方法に変更はなし。
関連科目	公民科教育法 I
履修要件	公民科教育法 I の履修を終えていること。 教育実習の計画がある学生は、教育実習の前年度までに受講することが望ましい。
必要な事前・事後学修	第 1 回目授業にて提示。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 公立高校社会科（地歴・公民科）教員歴 3 3 年間
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）
その他	2019 年度以降入学生は教職課程の必修科目

教育実習

Practice for Teaching Profession

担当教員名 國崎 大恩			
科目区分 教職 必修	授業方法 実習	授業の実施方法 対面授業	対象学年 3・4 年
開講期 前期集中	単位数 3	オフィスアワー	木曜日 3 限 経済学部棟 4 階 407
メールアドレス	taion@fpu.ac.jp		
授業概要	教育実習は、観察・参加・実習という方法により学校教育の実際に関わることを通して、教師としての愛情と使命感を深め、自らの資質・能力や適性を考えるとともにその課題を自覚する機会である。また、学校教育を実際に体験することによりその総合的理解を深めることができるだけでなく、教育実践ならびに教育実践研究の具体的・基礎的な能力と態度を身につけることができる。したがって、教育実習がより有意義なものとなるよう事前・事後指導も行う。		
到達目標	教育実習の目標は、学校教育と実際に関わることを通して、生徒の実態や学級経営・教育活動等について総合的に理解するとともに、指導・支援のための基礎的な指導力を身につけることにある。具体的な到達目標は以下の通りである。 1) 現時点での教育者としての資質・能力をみきわめ、今後の教師としての成長課題を説明することができる。 2) 学校の組織や教職員の役割・職務内容について具体的に説明することができる。 3) 生徒の実態や課題を把握し、それらをふまえた指導・支援方法を考えることができる。 4) ICT の活用やアクテ		
授業計画・内容			
事前・事後指導の日程は掲示板により連絡するため、忘れず確認すること。 (1) 事前指導の内容 1. 1 年次 1 月 : 教職オリエンテーション 2. 2 年次 1 月 : 実習に関するオリエンテーション(実習校への依頼について) 3. 3 年次 7 月頃 : 教育実習の実際 4. 3 年次 1 月頃 : 特別支援学校での実習事前指導 5. 3 年次 2 月 : 教育関係施設における見学実習(特別支援学校) 6. 4 年次 4 月 : 実習事前指導 (1) 生徒理解について 7. 4 年次 4 月～5 月 : 実習実践指導(指導案作成、模擬授業) 8. 4 年次 4 月～5 月 : 実習事前指導 (2) 実習中の留意事項、(3) 実習にむけた心構え (2) 教育実習 4 年次 5 月～6 月 : 2 週間の実習校における実習 (3) 事後指導の内容 4 年次 7 月～8 月 : 教育実習の振り返りー授業実践・生徒理解の実態と課題ー ※事前指導・事後指導が遠隔授業となった場合は zoom によるオンライン授業を実施します			
キーワード	学習指導、生徒指導、学級経営、教育実践		
教科書	適宜、プリントを配布する。		
参考書	『増補版 教育実習ハンドブック』柴田義松・木内剛、学文社、2012 年。 『教育実習完璧ガイド』宮崎猛・小泉博明、小学館、2015 年。		
評価方法・評価基準	評価方法：実習校での評価(80%)、実習日誌を含むポートフォリオ(20%)※遠隔時も同様 評価基準：授業目標に掲げた 4 観点について、実習校での評価・実習日誌・ポートフォリオにより総合的に評価を行う。		

	※遠隔時も同様
関連科目	教職科目のすべて
履修要件	3年次までに、教師論、教育原理、教育心理学、各科教育法Ⅰの単位を修得した者だけが、4年次の教育実習に参加できる。
必要な事前・事後学修	事前学修：事前指導の内容をしっかりと理解し、自分なりの明確な課題を明確にする。 事後学修：自分に欠けている教師の資質能力が何かを考え、教師として自分が今後どのように成長していけばよいのかを明確にする。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 学校現場において教員経験のある教員が、その経験を活かして、実践的に指導をおこなう。
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育実習
その他	教育実習をより有意義なものとするため、何事にも積極的に取り組んで下さい。 事前指導、事後指導の欠席はやむを得ない場合を除き、基本的に認めません。

養護実習

Practice for School Nursing

担当教員名 松川 里美、黒田 祐二、川村 みどり、矢島直樹			
科目区分 教職 必修	授業方法 講義・演習・実習	授業の実施方法 対面授業	対象学年 4年
開講期 前期集中	単位数 5	オフィスアワー	授業の後に質問等を受け付けます。
メールアドレス	【授業計画・内容】に記載		
授業概要	養護実習では、教育の理論および養護に関する専門的知識や技術を活用し、養護実践や学校保健活動を実践する。この実習を通して養護教諭に必要な基本的知識や技術を体系的に習得すると共に、教育専門職としての態度を身につけ、養護教諭としての自らの課題を明らかにする。5単位のうち1単位は、養護実習に係る事前・事後指導として1年～4年に開講し、実習にむけて教職に関する知識、教育者としての基本的心構え、健康相談活動、指導案作成などの講義・演習を行う。		
到達目標	①発達過程にある児童・生徒の理解と学校生活の実態を把握する。 ②学校保健計画の立案と運営を理解する。 ③保健管理および保健教育や保健指導・組織活動の実際を経験する。 ④保健室運営と養護教諭の職務の実際を経験する。 ⑤実習体験をまとめる。		
授業計画・内容			
【メールアドレス】 松川：pt-matsusato、黒田：ykuroda、川村：kwmr2021、矢島：nyajima アドレスの末尾に「@fpu.ac.jp」をつけてください 【授業計画・内容】 実習に関わる事前指導内容を習得したうえで、養護実習を行う。実習後は実習体験に基づいてまとめを行う。 主な具体的内容は下記に示すとおりである。 Ⅰ 事前学習 * 開講時期は予定であり、都合により変更することがある ① 1年次 4月、12月：教職オリエンテーション ② 2年次 2月：実習に関するオリエンテーション＜実習校の内諾について＞ ③ 2年次 3月：教育関係施設における見学実習＜高等学校＞ ④ 3年次12月：実習事前指導（1）＜実習全般について＞ ⑤ 3年次 3月：教職に関する講話（1）＜フィールドワーク；救急法と災害時の対応＞ ⑥ 4年次 3月：教職に関する講話（2）＜健康相談活動の進め方＞ ⑦ 4年次 4月：実習実践指導＜指導案作成、模擬授業＞ ⑧ 4年次 4月：実習事前指導（2）＜児童生徒との関わりについて＞ ⑨ 4年次 4月：実習事前指導（3）＜養護実習の留意事項等＞ Ⅱ 養護実習 * 期間は実習校との相談の上、決定する 4年次 6月：4週間 Ⅲ 事後学習 4年次 8月：実習事後指導 ＜グループワークと発表＞ 遠隔授業になった場合は zoom によるオンライン授業とします			

キーワード	学校保健, 養護教諭, 養護実習
教科書	学校保健Ⅰ・Ⅱの授業に用いた教科書
参考書	学校保健Ⅰ・Ⅱの授業に用いた参考書、授業案作成の講義にて紹介された書籍など
評価方法・評価基準	実習校での養護実習担当教員による評価(60%)および事前・事後指導でレポートした内容や授業参加態度(発言・発表・意欲・マナーを含む)(40%)を基準に評価する。遠隔授業となった場合も同様である。
関連科目	養護実習を除く教職関連科目および学校保健Ⅰを含む養護に関する科目
履修要件	教師論, 教育原理, 教育心理学, 成人急性看護学実習の単位を修得していること。
必要な事前・事後学修	適時、教員が指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり
施行規則に定める科目区分又は事項等	養護実習
その他	養護実習校は承諾を得た小学校・中学校・高校のいずれかで行う。

道徳教育の理論と実践

Theory and Practice of Moral Education

担当教員名 國崎大恩				
科目区分 教職 必修 (養護教諭) 選択 (その他)		授業方法 講義・演習	授業の実施方法 遠隔授業 (ハイフレックス)	対象学年 1・2・3・4 年
開講期 前期		単位数 2	オフィスアワー	木曜日 3 限 経済学部棟 4 階 407
メールアドレス		taion@fpu.ac.jp		
授業概要	道徳教育に関する理論的・実践的事柄を多面的に考察することによって、道徳教育に関する基礎的知識を学ぶ。さらに、それらの知識を応用しながら道徳科の指導案作りと模擬授業を行うことで、道徳に関する具体的指導力を身につけるとともに反省的实践家として教師に求められる基礎的反省力を身につける。			
到達目標	道徳教育及び道徳科について理論的・実践的理解を深めるとともに、道徳科の授業を行うことができるようになることがねらいである。具体的な到達目標は次の通りである。 (1) 道徳教育に関する理論を説明することができる。 (2) 先進的事例を踏まえ、道徳教育の実践的課題について説明することができる。 (3) 道徳科の授業を計画し、指導案を書くことができる。 (4) 道徳科の授業を振り返り、実践の改善にむけた反省をすることができる。			
授業計画・内容				
第 1 回： 現在の道徳教育をめぐる問題…本授業のねらいと学生の課題設定について				
第 2 回： 西洋倫理・道徳思想(1)…古代～近代黎明期までの道徳思想について				
第 3 回： 西洋倫理・道徳思想(2)…近代黎明期～現代までの道徳思想について				
第 4 回： 現代の倫理・道徳思想と私たちの社会…道徳思想の現代的課題について				
第 5 回： 日本における道徳教育の歴史(1)…明治～昭和初期までの道徳教育の歴史について				
第 6 回： 日本における道徳教育の歴史(2)…昭和初期～現在までの道徳教育の歴史について				
第 7 回： 学習指導案の書き方…道徳科の学習指導案の書き方について				
第 8 回： 道徳教育の実践的課題(1)…学校全体で取り組む道徳教育に関するケーススタディ				
第 9 回： 道徳教育の実践的課題(2)…モラルジレンマ授業に関するケーススタディ				
第 10 回： 道徳教育の実践的課題(3)…道徳科の問題解決的な学習に関するケーススタディ				
第 11 回： 模擬授業(1)…道徳科の模擬授業と授業研究会の実施				
第 12 回： 模擬授業(2)…道徳科の模擬授業と授業研究会の実施				
第 13 回： 模擬授業(3)…道徳科の模擬授業と授業研究会の実施				
第 14 回： 模擬授業(4)…道徳科の模擬授業と授業研究会の実施				
第 15 回： 道徳教育のこれから…道徳教育の課題と展望に関する議論				
※遠隔授業となった場合は zoom によるオンライン授業を実施します				
キーワード	道徳教育、特別の教科「道徳」、考え議論する道徳			
教科書	『実践につながる道徳教育論』藤川信夫監修、北樹出版、2024 年			
参考書	小学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月告示、文部科学省) 小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 (平成 29 年 7 月、文部科学省)			
評価方法・評価基準	評価方法：模擬授業 (30%)、グループディスカッション (20%)、レポート試験 (50%) 評価基準：授業目標に掲げた 4 観点について、模擬授業・グループディスカッション・期末レポートより総合的に評価を行う。			

関連科目	教育原理、教育方法論、教育実習、養護実習
履修要件	教職課程を履修していること
必要な事前・事後学修	事前学修：模擬授業の準備、レジュメの作成 事後学修：ポートフォリオの作成
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 学校現場において教員経験のある教員が、その経験を活かして、具体的な場面を想定して 講義をおこなう
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護教諭一種免許状を取得する場合は「道徳、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時 間並びに特別活動に関する内容」 高等学校教諭一種免許状を取得する場合は「大学が独自に設定する科目」
その他	養護教諭一種免許状の取得を希望する場合は「必修」科目となります。 高等学校教諭一種免許状の取得を希望する場合は「選択」科目となります。 いずれの場合も卒業要件単位には含まれません。

学校インターンシップ（学校体験活動）B

School Internship B

担当教員名 國崎 大恩			
科目区分 教職 選択	授業方法 実習	授業の実施方法 対面授業	対象学年 1 年
開講期 後期	単位数 2	オフィスアワー	木曜日・3 時限目
メールアドレス	taion@fpu. ac. jp		
授業概要	・永平寺町内の小中学校において、児童生徒への学習支援や適応支援、授業準備や事務業務の補助、部活動の補助業務、学校行事での補助業務など、各種支援・補助活動を行う。 なお、具体的な活動内容は派遣先の学校に応じて異なる。 ・インターンシップ先での活動内容等を活動記録表に毎回記入し、活動終了後に提出する。		
到達目標	1) 児童生徒の実態や課題を理解し、学校現場の実情について説明できる。 2) 学級運営や学校運営に関する教育活動の特色や工夫について説明できる。		
授業計画・内容			
第 1 回：ガイダンス 1（実習の目的と留意点） 第 2 回：ガイダンス 2（実習校の説明と決定） 第 3 回～1 4 回：各学校での実習・・合計 2 4 時間以上 （例：1 週 1 回 2 時間× 1 2 週＝ 2 4 時間） （例：1 週 1 回 2 時間×10 週＋ 1 週 1 回 1 時間× 4 週＝ 2 4 時間） 第 1 5 回：まとめと振り返り ※第 1 回と第 2 回の授業のみ永平寺 C で実施する。第 3 回以降は、各学生と実習校が個別に協議・調整した上で、実施日時・内容を決定する。 遠隔になった場合：実習受け入れ校との協議により対応			
キーワード	学校インターンシップ、学校体験活動		
教科書	なし		
参考書	適宜、提示する		
評価方法・評価基準	活動記録表（50%）、最終レポート（50%） 遠隔になった場合：対面時と同じ 評価基準：学校現場においておこなった自分の活動について活動記録表やレポートを通して分かりやすく説明できているかを評価する。		
関連科目	学校インターンシップ（学校体験活動）A、教育実習		
履修要件	教職課程を履修していること		
必要な事前・事後学修	事前学修：活動の見通し、目標設定 事後学修：活動の振り返り、活動記録表の記録		
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 小学校での教員経験がある教員が指導します		

施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目
その他	

教職実践演習（養護教諭）

Practical Seminar for the Teaching Profession: Practice for School Nursing

担当教員名 松川 里美				
科目区分 教職 必修		授業方法 講義・演習	授業の実施方法 対面授業	対象学年 4年
開講期 後期		単位数 2	オフィスアワー	授業の後に質問等を受け付けます。(N411)
メールアドレス		pt-matsusato アドレスの末尾に「@fpu.ac.jp」をつけてください。		
授業概要	養護実習の振り返りと履修カルテを基に、養護教諭になるための課題をみつけ、課題の克服を意識しながら学習を進めていく。保健室経営や学校集団のなかでの感染症対策、保健指導など、養護教諭が行う活動場面を複数取り上げ、演習や討論、およびゲストスピーカーによる講義を受け、養護教諭として自らの力量と資質の向上を目指す。			
到達目標	①卒業後に教育現場で働くことを見据えた上で、養護教諭としての力量と資質向上にむけた4年間の学習と養護実習で得た学びを深め、演習や討論を通して実践力を高める。 ②ゲストスピーカーによる講義を通して、学校保健活動の課題を見つけ、養護教諭としての役割と機能について理解を深める。			
授業計画・内容				
第1回 履修カルテの振り返りと変容について 第2回 実習日誌を用いて自己分析・健康課題について意見交換（GW） 第3回 健康課題解決のための保健室経営計画の作成 第4回 養護教諭が担う教育とは。保健指導案の作成 第5回 健康管理について実習体験の共有化と養護教諭の対応について（GW） ①疾病の健康管理 ②生活習慣病の健康管理 ③感染症の健康管理 第6回 ゲストスピーカーによる講義（テーマ・講師未定） 第7回 健康相談活動について実習体験の共有化と養護教諭の対応について（GW） 不登校、いじめ、心身症、頻回来室の子ども等 第8回 ゲストスピーカーによる講義（テーマ・講師未定） 第9回 学習指導要領と教育課程について討議 第10回 ゲストスピーカーによる講義（テーマ・講師未定） 第11回～第14回 健康教育の実際（模擬授業と授業研究） 第15回 学校保健組織活動における養護教諭の役割と専門性（GW） 遠隔授業になった場合は zoom によるオンライン授業とします。				
キーワード	学校保健、養護教諭、健康教育」、健康相談活動、保健室経営			
教科書	学校保健Ⅰ・Ⅱで用いた教科書			
参考書	教職関連の講義や養護実習で使用した教科書			
評価方法・評価基準	養護実習における実習体験の討論の内容（30%）および発表まとめ等のレポート（50%）から評価する。さらに、演習の参加意欲・態度（マナーを含む）（20%）を評価の参考にする。遠隔授業となった時も同様である。			
関連科目	教職に関連する科目、養護に関連する科目			
履修要件	教職に関する科目、養護実習の単位を修得していること			
必要な事前・事後学修	適時、教員が指示する			

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 養護教諭として学校保健に携わった教員が講義
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護実習
その他	養護実習で使用した養護実習日誌、指導案等の資料なども講義中に活用する